

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成24年5月1日現在)

福山大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	在籍学生数	9
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	12
基礎資料 4	カリキュラムマップ	55
基礎資料 5	語学教育の要素	56
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	57
基礎資料 7	学生受入状況における志願者数等について	62
基礎資料 8	教員・事務職員数	63
基礎資料 9	専任教員年齢構成	64
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	65
基礎資料11	卒業研究の配属状況	103
基礎資料12	講義室等の数と面積	104
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	105
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	106
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	107

(基礎資料1-1) 学年別授業科目

	1 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	教養ゼミ	前期・後期	101	1	101	オ			2
	日本語表現	前期	32-34	3	101	コ			2
	IT	前期	32-34	3	101	コ	オ	タ(演習)	2
	英語(Ⅰ)	前期	33-34	3	101	コ			2
	英語(Ⅱ)	後期	33-34	3	101	コ			2
	英会話(Ⅰ)	前期	16-17	6	101	コ			2
	英会話(Ⅱ)	後期	16-17	6	101	コ			2
	(択) 中級英語(Ⅰ)	前期	3	1	2	コ			2
	(択) 中級英語(Ⅱ)	後期	3	1	2	コ			2
	(択) TOEIC(Ⅰ)	前期	14	1	5	コ			2
	(択) TOEIC(Ⅱ)	後期	17	1	3	コ			2
	(択) ドイツ語(Ⅰ)	前期	143	1	1	コ			2
	(択) 中国語(Ⅰ)	前期	420	1	1	コ			2
	(択) 数理科学	前期	95	1	8	コ			2
	(択) 暮らしと物づくり	後期	63	1	4	コ			2
	(択) 物理現象の基礎	後期	56	1	9	コ			2
	(択) 自然と人間A	前期	101	1	101	コ			1
	(択) 人体のしくみ	後期	269	1	7	コ			2
	(択) 化学の基礎A	前期	101	1	100	コ			1
	(択) 化学の基礎B	前期	100	1	99	コ			1
	(択) 市民生活と法	前期	150	1	25	コ			2
	(択) 憲法(1)	前期	308	1	46	コ			2
	(択) 憲法(2)	後期	287	1	8	コ			2
	(択) 法学概論(1)	前期	31	1	6	コ			2
	(択) 教育原理	前期	265	1	7	コ			2
	(択) 教育制度論	後期	124	1	8	コ			2
	(択) 日本史(1)	前期	398	1	38	コ			2
	(択) 人文地理(2)	後期	84	1	17	コ			2
	(択) 地誌	後期	78	1	16	コ			2
	(択) 歴史と人間(1)	前期	104	1	24	コ			2
	(択) 歴史と人間(2)	後期	65	1	12	コ			2
	(択) 哲学(2)	後期	78	1	1	コ			2
	(択) 倫理学(1)	前期	73	1	20	コ			2
	(択) 倫理学(2)	後期	58	1	2	コ			2
	(択) 書道	前期・後期	81	1	7	コ		タ	2
	(択) 陶芸	前期・後期	165	1	26	コ		タ	2
	(択) 柔道(1)	前期	46	1	1	コ		タ	2
	(択) 剣道(1)	前期	22	1	6	コ		タ	2
	(択) 剣道(2)	後期	24	1	5	コ		タ	2
	(択) 体育(1)	前期	220	1	36	コ		タ	2
(択) 体育(2)	後期	197	1	6	コ		タ	2	
* 薬学専門教育 *	薬学入門Ⅰ								
	薬学入門Ⅰ	前期	103	1	101	S	オ		2
	薬学入門Ⅰ								
	薬学の基礎としての数学・統計A	後期	103	1	101	コ			1
	薬学の基礎としての物理	前期	103	1	97	コ			1
	有機化学入門A	前期	103	1	103	コ			1
	物質の基本概念A	前期	103	1	100	コ			1
	薬学の基礎としての生物A	前期	104	1	104	コ			1
	薬学入門Ⅱ								
	薬学入門Ⅱ	後期	103	1	96	S	オ		2
	薬学入門Ⅱ								
	薬学の基礎としての数学・統計B ^{注)}	後期	5	1	5	コ			1
	有機化学入門B ^{注)}	後期	0	1	0	コ			1
	物質の基本概念B ^{注)}	後期	2	1	2	コ			1
	薬学の基礎としての生物B ^{注)}	後期	8	1	8	コ			1
	物質の状態Ⅰ	後期	103	1	97	コ			1
化学平衡	後期	103	1	103	コ	オ		1	
有機化合物の骨格と性質	後期	103	1	99	コ			1	
官能基の性質・反応・合成	後期	103	1	101	コ			1	

	漢方薬物Ⅰ	前期	104	1	104	コ		1
	漢方薬物Ⅱ	後期	104	1	104	コ		1
	人体の構造と機能Ⅰ	前期	103	1	103	コ		1
	人体の構造と機能Ⅱ	後期	103	1	102	S		1
	生命体の基本単位としての細胞	後期	103	1	101	コ		1
実習	実習Ⅰ	後期	103	1	96	タ		1
演習								
単位数の合計							(必須科目)	15
							(選択科目)	65
							(選択必修科目)	18 (22)
							合計	98 (102)

薬学専門教育：薬学部の専門教育は、実習および演習を除き選択必修科目

注)：Bの科目はAの科目の補充科目（Aが不可の場合のみ履修可能）

注意：平成22年度入学生より専門教育の単位数および実習の編成を変更している。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	(択) 化学の基礎	後期	21	1	1	コ			2	
	(択) 教育原理	前期	265	1	2	コ			2	
	(択) 日本史 (2)	後期	330	1	1	コ			2	
	(択) 発達心理学	後期	222	1	2	コ			2	
	(択) 心のしくみ	後期	85	1	6	コ			2	
	(択) 体育 (2)	後期	197	1	1	コ	オ		2	
薬学専門教育	薬学英語 I	前期	99	1	91	コ			1	
	薬学英語 II	後期	99	1	88	コ			1	
	コミュニケーション									
	コミュニケーション	前期	99	1	93	タ			2	
	コミュニケーション									
	物質の構造 I	前期	99	1	96	コ			1	
	化学物質の検出と定量	前期	99	1	93	コ			1	
	生体分子の立体構造	前期	99	1	97	コ			1	
	物質の構造 II	前期	99	1	92	コ			1	
	物質の状態 II	後期	99	1	90	コ			1	
	生体中の金属、分子を解析する方法	後期	99	1	97	コ	オ		1	
	化学物質の分析、臨床応用	後期	99	1	95	コ			1	
	官能基と構造解析	前期	99	1	94	コ			1	
	薬になる動植物	前期	99	1	93	コ			1	
	ターゲット分子の合成	後期	99	1	99	コ			1	
	天然物化学	後期	99	1	89	コ			1	
	生命活動を担うタンパク質	前期	99	1	93	コ			1	
	生命情報を担う遺伝子	後期	99	1	97	コ			1	
	生体エネルギー	後期	99	1	92	コ			1	
	生理活性分子とシグナル分子	前期	100	1	100	コ			1	
	生体機能調節	前期	99	1	98	コ			1	
	細胞を構成する分子	後期	99	1	96	コ			1	
小さな生き物たち										
小さな生き物たち	後期	99	1	89	コ	S		1		
薬の作用と生体内運命	前期	99	1	93	コ			1		
薬物作用の基礎	後期	99	1	92	コ			1		
医薬品開発 I	後期	99	1	92	コ			1		
実習	実習 II	前期	86	3	86	タ			3	
	実習 III	後期	87	4	87	タ			4	
	移行期間のため変則的に開講									
	実習 II (平成21年度入学生まで) : 前期→後期	後期	3	3	3	タ			3	
実習 III (平成21年度入学生まで) : 3年次に開講	後期	—	—	—	—			3		
演習										
単位数の合計									(必須科目)	7(3)
									(選択科目)	12
									(選択必修科目)	25
									合計	44 (40)

薬学専門教育: 薬学部の専門教育は、実習および演習を除き選択必修科目

注意: 平成22年度入学生より専門教育の単位数および実習の編成を変更している。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	生命倫理								
	生命倫理	後期	109	1	38	オ	タ(実習)	S	2
	生命倫理								
	薬局方収載の試験法	前期	109	1	92	コ	オ		2
	物質の変化	前期	109	1	103	コ			2
	薬物の宝庫としての天然物	前期	109	1	105	コ			2
	生体分子、医薬品を化学で理解する	前期	109	1	92	コ			2
	遺伝子を操作する	前期	109	1	89	コ			1
	生体防御Ⅰ	前期	109	1	105	コ			2
	生体防御Ⅱ	後期	109	1	104	コ			2
	食品衛生	後期	111	1	111	コ			2
	化学物質の生体への影響	後期	109	1	108	コ			2
	生活環境と健康	前期	111	1	111	コ			2
	血液・造血器系疾患と薬物治療	後期	109	1	109	コ			2
	感染症にかかる	前期	109	1	107	コ			1
	病原微生物とたたかう	後期	109	1	108	コ			1
	薬物動態の解析Ⅰ	後期	109	1	109	コ			2
	調剤	後期	109	1	107	コ			2
	薬物の臓器への到達と消失	前期	109	1	107	コ			2
	製剤材料の性質	前期	109	1	109	コ			2
	剤形をつくる	後期	109	1	106	コ			2
	循環器・腎疾患と薬物治療	後期	109	1	107	コ			2
	代謝性・呼吸器疾患と薬物治療	後期	109	1	106	コ			2
神経・精神疾患と薬物治療	後期	109	1	107	コ			2	
生殖器・内分泌系疾患と薬物治療	前期	109	1	106	コ			2	
消化器系疾患と薬物治療	前期	111	1	111	コ			2	
医薬品開発Ⅱ	後期	109	1	108	コ	オ		2	
法制度	後期	109	1	105	コ			2	
医薬品情報	前期	109	1	107	コ			1	
実習	実習Ⅳ(含薬物治療演習)	前期	107	4	107	タ			3
	課題研究	後期	3-8	20	109	オ			—
	移行期間のため変則的に開講								
	H24年度開講 実習Ⅲ(平成21年度入学生まで)	後期	11	1	11	タ			3
H24年度開講 実習Ⅴ	後期	77	1	77	タ			2	
演習									
単位数の合計							(必須科目)		3
							(選択科目)		0
							(選択必修科目)		50
							合計		53

薬学専門教育: 薬学部の専門教育は、実習および演習を除き選択必修科目

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

		4 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	教養教育・語学教育									
	疾病の予防	前期	135	1	135	コ			2	
	社会・集団と健康	前期	135	1	135	コ			2	
	薬物動態の解析Ⅱ	前期	135	1	133	コ	S	タ	2	
	DDS	前期	135	1	135	コ			1	
	悪性腫瘍と薬物治療	前期	136	1	136	コ			1	
	基礎病態解析学	前期	135	1	134	コ	オ		2	
	骨・関節、アレルギー・免疫疾患と薬物治療	前期	135	1	135	コ			2	
	眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬物治療	前期	137	1	137	コ			2	
	臨床検査	前期	136	1	136	コ	S	タ	2	
	臨床検査	前期	137	1	137	コ	S		2	
	患者情報	前期	135	1	105	コ			2	
	テーラーメイド薬物治療	前期	135	1	83	コ			2	
	バイオ医薬品とゲノム情報	前期	135	1	133	コ		タ	2	
	医療の担い手の心構え	前期	135	1	36	コ	S		2	
	医療の担い手の心構え	前期	135	1	134	コ			2	
	医療の担い手の心構え	後期	135	1	134	コ			2	
	医療コミュニケーション	前期	135	1	74	コ			1	
	医薬品管理	前期	135	1	134	コ			2	
	社会保障制度と薬剤経済	前期	135	1	134	コ			2	
コミュニティファーマシー	後期	135	1		コ			1		
実習	事前学習	後期	30 - 36	4	135	コ	S	タ	5	
	事前学習									
	事前学習									
	事前学習									
	課題研究	前期・後期	5-7	22	135	オ			—	
演習	総合薬学演習	後期	135	1	135	コ			2	
単位数の合計								(必須科目)	7	
								(選択科目)	0	
								(選択必修科目)	31	
								合計	38	

薬学専門教育：薬学部の専門教育は、実習および演習を除き選択必修科目

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

		5 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育									
実習	病院実務実習	前期・後期	35 - 47	3	123	タ			10
	病院実務実習								
	病院実務実習								
	病院実務実習								
	薬局実務実習	前期・後期	8 - 66	3	123	タ			10
	薬局実務実習								
	薬局実務実習								
	実務実習後学習	前期・後期	43 - 113	3	123	タ			1
	実務実習後学習								
	実務実習後学習								
課題研究	前期・後期	4-7	22	123	オ				—
演習									
単位数の合計								(必須科目)	21
								(選択科目)	0
								(選択必修科目)	0
								合計	21

薬学専門教育: 薬学部の特設教育は、実習および演習を除き選択必修科目

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

		6 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
薬学専門教育	物理系薬学特講	前期	146	1	146	コ			1
	化学系薬学特講	前期	146	1	146	コ			1
	生物系薬学特講	前期	146	1	146	コ			1
	健康と環境特講	前期	146	1	146	コ			1
	医薬品をつくる特講	前期	146	1	146	コ			1
	薬学と社会特講	前期	146	1	146	コ			1
	実習	課題研究	前期・後期	5-9	21	146	オ		
演習	ファーマシューティカルケア総合演習	前期	10-80	18	146	オ			2
	医療薬学演習	後期	146	1	146	コ			2
単位数の合計								(必須科目)	10
								(選択科目)	0
								(選択必修科目)	6
								合計	16

薬学専門教育: 薬学部の専門教育は、実習および演習を除き選択必修科目

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	9	36
教養教育科目	35	67
語学教育科目	12	22
医療安全教育科目	4	26
生涯学習の意欲醸成科目	9	36
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	17	55

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数			
	必須科目	選択科目	選択必修科目	合計
1 年 次	15	65	18 (22)	98 (102)
2 年 次	7 (3)	12	25	44 (40)
3 年 次	3	0	50	53
4 年 次	7	0	31	38
5 年 次	21	0	0	21
6 年 次	10	0	6	16
合計	63 (59)	77	130 (134)	270 (270)

(基礎資料2-1)在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	200	200	200	200	200	200	1,200	A	
	編入定員数	—	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	B	
	入学者数	100	101	88	107	149	141	686		
基準日 における	各学年の在籍学生数	103	101	91	108	134	125	662	C	
	編入学生数(内)	0	0	2	3	1	1	7	D	
	留年者数(内)	3	9	14	10	8	13	57		
	留年者の 入学年度	平成18年度	0	0	0	0	0	13	13	
		平成19年度	0	0	0	6	8	—	14	
		平成20年度	0	0	9	4	—	—	13	
		平成21年度	0	1	5	—	—	—	6	
		平成22年度	0	8	—	—	—	—	8	
平成23年度		3	—	—	—	—	—	3		
平成24年度	—	—	—	—	—	—	0			
C / (A + B)		0.55								
D / B		—								

[注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。

2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(基礎資料2-2) 在籍学生数：休学者数および退学者数

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
総在籍学生数	818		727		587		621		689		662	
	休学者数	退学者数										
1年次	3	7	2	6	2	4	2	4	2	3	3	2
2年次	2	1	1	3	2	3	3	0	1	3	4	0
3年次	2	1	4	2	1	1	1	1	0	0	2	1
4年次	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0
5年次	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	1	0
6年次	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0
合計	8	10	7	11	6	9	6	5	4	6	12	3

[注] 自己点検・評価対象年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士過程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月 卒業)	平成24年度 (平成25年3月 卒業)	平成25年度 (平成26年3月 卒業)	平成26年度 (平成27年3月 卒業)	平成27年度 (平成28年3月 卒業)	平成28年度 (平成29年3月 卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		146名	115名	名	名	名	名			
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	144名	8名	名	名	名	名	平成18年度	170名	84.7%
	平成19年度入学者	名	107名	名	名	名	名	平成19年度	141名	75.9%
	平成20年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成20年度	名	
	平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成21年度	名	
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	名	
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	名	

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目																																																																																			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																																																																														
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ																																																																																				
(1) 生と死																																																																																				
【生命の尊厳】																																																																																				
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)																																																																																				
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。																																																																																				
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。																																																																																				
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。																																																																																				
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)																																																																																				
【医療の目的】																																																																																				
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。																																																																																				
【先進医療と生命倫理】																																																																																				
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。																																																																																				
(2) 医療の担い手としてのこころ構え																																																																																				
【社会の期待】																																																																																				
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)																																																																																				
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)																																																																																				
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)																																																																																				
【医療行為に関わるこころ構え】																																																																																				
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。																																																																																				
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。																																																																																				
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。																																																																																				
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)																																																																																				
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)																																																																																				
【研究活動に求められるこころ構え】																																																																																				
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。																																																																																				
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)																																																																																				
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)																																																																																				
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】																																																																																				
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)																																																																																				
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)																																																																																				
【自己学習・生涯学習】																																																																																				
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)																																																																																				
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)																																																																																				
(3) 信頼関係の確立を目指して																																																																																				
【コミュニケーション】																																																																																				
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。																																																																																				
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。																																																																																				

生命倫理

薬学入門Ⅰ、Ⅱ

医薬品開発Ⅱ

医療の担い手のこころ構え

薬学入門Ⅰ

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。		コミュニケーション		医療コミュニケーション		
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。						
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）						
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）						
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。						
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）						
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）						
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）						
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）		コミュニケーション				
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。				医療コミュニケーション		
2) チームに参加し、協力的態度で役割を果たす。（態度）						
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）						
B インTRODクシヨN						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学入門Ⅱ					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。						
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。						
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】	薬学入門Ⅰ、Ⅱ					
1) 「薬とは何か」を概説できる。						
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬学入門Ⅱ					
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。						
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。			薬局方収載の試験法			
【総合演習】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学入門Ⅰ, Ⅱ					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)		実習Ⅲ				
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	薬学入門Ⅰ, Ⅱ					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)						
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)						
C 薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。		物質の構造Ⅰ				
2) 軌道の混成について説明できる。						
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。						
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。						
【分子間相互作用】						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		実習Ⅲ				物理系薬学特講、 化学系薬学特論
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。		物質の構造Ⅰ				
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		実習Ⅱ				
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		物質の構造Ⅰ				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)						
6) 偏光および旋光性について説明できる。						
7) 散乱および干渉について説明できる。						
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		物質の構造Ⅱ	実習Ⅳ			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線の測定原理について説明できる。						
(2) 物質の状態Ⅰ						
【総論】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物質の状態 I					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。						
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3) 仕事および熱の概念を説明できる。						
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)						
7) エンタルピーについて説明できる。						
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I					物理系薬学特講
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。						
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物質の状態 I	実習 II				
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)						
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	物質の状態 II					
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分子系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。					物理系薬学特講	
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。					物理系薬学特講	
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		実習 II				
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	物質の状態 II					
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。							
2) 標準電極電位について説明できる。							
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。							
4) Nernstの式が誘導できる。							
5) 濃淡電池について説明できる。							
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失				
(4) 物質の変化							
【反応速度】							
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		実習Ⅲ	物質の変化			物理系薬学特講	
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)							
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。							
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)							
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。							
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。				物質の変化			
7) 衝突理論について概説できる。							
8) 遷移状態理論について概説できる。							
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。							
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。				物質の変化			
【物質の移動】							
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		実習Ⅲ					
2) 沈降現象について説明できる。			製剤材料の性質				
3) 流動現象および粘度について説明できる。							
C2 化学物質の分析							
(1) 化学平衡							
【酸と塩基】							
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	化学平衡	実習Ⅱ					
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)							
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)							
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	化学平衡	実習Ⅱ					
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。							
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。							
【各種の化学平衡】							
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		化学物質の検出と定量					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。							
3) 酸化還元電位について説明できる。							
4) 酸化還元平衡について説明できる。		実習Ⅱ					
5) 分配平衡について説明できる。	化学平衡						
6) イオン交換について説明できる。							
(2) 化学物質の検出と定量							
【定性試験】							
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。							
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			薬局方収載の試験法				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。							
【定量の基礎】							
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		実習Ⅱ、Ⅲ					
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		実習Ⅲ	薬局方収載の試験法				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		化学物質の検出と定量					
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。			薬局方収載の試験法				
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。							
【容量分析】							
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量					
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。							
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)		実習Ⅱ					
【金属元素の分析】							
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		生体中の金属、分子を解析する					
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。							
【クロマトグラフィー】							
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		実習Ⅲ	薬局方収載の試験法				
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。							
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)							
(3) 分析技術の臨床応用							
【分析の準備】							
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		実習Ⅲ					
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		化学物質の分析					
【分析技術】							
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。							
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。							
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)							
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)							
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。							
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。							
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。							
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。							
9) 薬学領域で用いられるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。					物理系薬学特講		
【薬毒物の分析】							
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。							
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。							
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。						
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。						
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。						
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。						
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。						
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
3) 脂質の水における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。						
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						
C4 化学物質の性質と反応	有機化学入門A, B					
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。						
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	物質の基本概念 A, B					化学系薬学特論	
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。							
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。		実習 II					
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。							
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。							
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。							
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。							
【有機化合物の立体構造】							
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	有機化学入門 A, B					化学系薬学特論	
2) キラリティーと光学活性を概説できる。							
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学入門 A, B						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。							
5) 絶対配置の表示法を説明できる。							
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。							
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。							
【無機化合物】							
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	物質の基本概念 A, B					化学系薬学特論	
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。							
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。							
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。							
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。							
【錯体】							
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	医薬品開発 I						化学系薬学特論
2) 配位結合を説明できる。							
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。							
4) 錯体の安定度定数について説明できる。							
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。							
6) 錯体の反応性について説明できる。							
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。							
(2) 有機化合物の骨格							
【アルカン】							
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	有機化学入門 A, B					化学系薬学特論	
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。							
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。							
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。							
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。							
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。							
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。							
【アルケン・アルキンの反応性】							
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。	有機化合物の骨格と性質					
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	官能基の性質・反応・合成	実習 II				化学系薬学特論
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物を IUPAC の規則に従って命名できる。	有機化学入門 A, B					
2) 複数の官能基を有する化合物を IUPAC の規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。	医薬品開発 I					
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)	実習 I	実習 II				
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。						
【有機ハロゲン化合物】	有機化学入門 A, B					
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。	有機化合物の骨格と性質					
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff 則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	官能基の性質・反応・合成					
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】		官能基と構造解析				
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	有機化学入門 A, B					
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		ターゲット分子の合成				
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		ターゲット分子の合成				
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	官能基の性質・反応・合成					化学系薬学特論
3) 含窒素化合物の塩基性を説明できる。		ターゲット分子の合成				
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。	官能基と構造解析					化学系薬学特論
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。						
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。						
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。	官能基と構造解析					化学系薬学特論
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。						
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		実習II				
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。	有機化合物の骨格と性質					
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。	官能基の性質・反応・合成	官能基と構造解析				
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。						
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		官能基と構造解析				
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。		ターゲット分子の合成				
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	官能基の性質・反応・合成					
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		実習Ⅱ				
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機化合物の骨格と性質					
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。		ターゲット分子の合成				
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。		官能基と構造解析				
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化合物の骨格と性質	ターゲット分子の合成				
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	官能基の性質・反応・合成	ターゲット分子の合成				
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。						化学系薬学特講
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)		実習Ⅱ				
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)						
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。		医薬品開発Ⅰ				
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			生体分子・医薬品を化学で理解する			
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。		医薬品開発 I				
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。		医薬品開発 I				
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。		医薬品開発 I				
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。		生体分子・医薬品を化学で理解する				
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。		医薬品開発 I				化学系薬学特論
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)	有機化学入門 A, B					
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		生体分子・医薬品を化学で理解する				
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。		生体分子・医薬品を化学で理解する				
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。						
3) β -ラクタムを持つ医薬品的作用機序を化学的に説明できる。						
G7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		薬になる動植物				
2) 生薬の歴史について概説できる。						
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)						化学系薬学特論
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		薬になる動植物				
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)		実習Ⅲ				
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		薬になる動植物				
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。						
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		天然物化学				
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬物の宝庫としての天然物			
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		天然物化学				
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		天然物化学				
【農薬、香料品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、香料品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			薬物の宝庫としての天然物			
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		薬になる動植物				
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)		実習Ⅲ				
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		薬になる動植物				
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		天然物化学	薬物の宝庫としての天然物			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		天然物化学				
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。		実習Ⅲ	薬物の宝庫としての天然物			
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			薬物の宝庫としての天然物			
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。			薬物の宝庫としての天然物			
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。		実習Ⅲ	薬物の宝庫としての天然物			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。	漢方薬物Ⅰ、Ⅱ	実習Ⅲ										
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。												
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。												
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。												
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		実習Ⅲ										
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。												
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。												
【漢方処方の応用】												
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。												
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。												
【生物系薬学を学ぶ】												
C8 生命体の成り立ち												
(1) ヒトの成り立ち												
【概論】												
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。												
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。												
【神経系】							人体の構造と機能Ⅰ					
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。								神経・精神疾患と薬物治療				
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。												
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。								生体機能調節				
【骨格系・筋肉系】												
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。												
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。												
【皮膚】												
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。												
【循環器系】												
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。												
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。												
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。							生体機能調節					
【呼吸器系】							人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ					
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。												
【消化器系】												
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。												
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。												
【泌尿器系】												
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。												
【生殖器系】												
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							生体機能調節					
【内分泌系】												
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。												
【感覚器系】												
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ											
		生殖器・内分泌疾患と薬物治療										

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【血液・造血管系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血管系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体機能調節				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	人体の構造と機能 I					生物系薬学特論
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。						
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞					
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。						
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。						
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	人体の構造と機能 I, II	生体機能調節、薬物作用の基礎				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	人体の構造と機能 II					
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	人体の構造と機能 II	生体機能調節				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。	生体機能調節 I					
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		生体機能調節				
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。	人体の構造と機能 I, II	生体機能調節				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	人体の構造と機能 II					
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1) 体温の調節機構を説明できる。	人体の構造と機能 I						
(4) 小さな生き物たち							
【総論】							
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		小さな生き物たち					
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。							
【細菌】							
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。							
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。							
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。							
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。							
5) 腸内細菌の役割について説明できる。							
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。							
【細菌毒素】							
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。							
【ウイルス】							
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。							
2) ウイルスの分類法について概説できる。							
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。							
【真菌・原虫・その他の微生物】							
1) 主な真菌の性状について説明できる。							
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。							
【消毒と滅菌】							
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。					生物系薬学特論		
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)							
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)							
【検出方法】							
1) グラム染色を実施できる。(技能)			実習 V				
2) 無菌操作を実施できる。(技能)							
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)							
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。						生物系薬学特論	
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)							
C9 生命をミクロに理解する							
(1) 細胞を構成する分子							
【脂質】							
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞	生体エネルギー					
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。							
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。							
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。							
【糖質】							
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞					生物系薬学特論
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。		生命活動を担うタンパク質				
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	薬学の基礎としての生物A, B		食品衛生			
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。		生命情報を担う遺伝子				
2) DNAの構造について説明できる。						
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。						
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
4) 染色体の構造を説明できる。						
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。						
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。						
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。						
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。						
3) DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異(SNPs)が機能におよぼす影響について概説できる。						
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。		生命活動を担うタンパク質				
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。		生命活動を担うタンパク質	実習V			
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。			実習V			
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)						
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。		生命活動を担うタンパク質				生物系薬学特論
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
3) 血漿リボタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)			実習IV			生物系薬学特論
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						生物系薬学特論
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生命活動を担うタンパク質				
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		生体エネルギー				
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系(酸化的リン酸化)について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生体エネルギー				
2) 糖新生について説明できる。						
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。						
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。						
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。						
(6) 遺伝子进行操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。						
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)						
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)						
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)						
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。						
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。						

生理活性分子とシグナル分子

神経・精神疾患と薬物治療

生理活性分子とシグナル分子

神経・精神疾患と薬物治療

遺伝子进行操作する

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						生物系薬学特論
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)			実習Ⅳ			
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症にかかる			
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、Δブルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリillum属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、Δムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			感染症にかかる			
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			食品衛生			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						健康と環境特講
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）						
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。						
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			小さな生き物たち	感染症にかかる		
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。				食品衛生		
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				社会・集団と健康		
2) 人口静態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。					社会・集団と健康、疾病の予防	
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。					社会・集団と健康	
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）					社会・集団と健康、疾病の予防	
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				社会・集団と健康		
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）						
5) 要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				疾病の予防		
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						健康と環境特講
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。				社会・集団と健康		
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。				疾病の予防		
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。				社会・集団と健康		
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				疾病の予防		
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。						
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。				悪性腫瘍と薬物治療		
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)				化学物質の生体への影響		健康と環境特講

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)						
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。		物質の構造 II				
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						健康と環境特講
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)						健康と環境特講
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)						
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4) シックハウス症候群について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。						
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)						健康と環境特講
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			生活環境と健康			
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。			薬の作用と 生体内運命			
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。			実習IV			
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。						
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			神経・精神疾患と薬物治療			
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			神経・精神疾患と薬物治療			
5) 代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬物作用の基礎	実習Ⅳ			
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）△技能であるからCBTIには馴染まない						
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬物作用の基礎	実習Ⅳ			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			循環器・腎疾患と薬物治療			
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			実習Ⅳ			
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			代謝性・呼吸器疾患と薬物治療			
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬物作用の基礎				
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。						
(3) 薬の効き方Ⅱ						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			生殖器・内分泌疾患と薬物治療			
2) 代表的な糖質コルチコイド剤の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な性ホルモン剤および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			消化器系疾患と薬物治療			
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			循環器・腎疾患と薬物治療			
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			血液・造血器系疾患と薬物治療			
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			代謝性・呼吸器疾患と薬物治療			
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			消化器系疾患と薬物治療			
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			生殖器・内分泌疾患と薬物治療			
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			薬物の臓器への到達と消失			
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
到達目標：						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。						
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）						
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。						
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。						
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。						
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)						
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)						
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング(TDM)の意義を説明できる。						
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)						
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)						
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						

調剤

薬物動態の解析 I

薬物動態の解析 II

薬物動態の解析 II

実習 VI

薬物動態の解析 II

薬物の臓器への到達と消失

薬物動態の解析 II

薬物動態の解析 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			神経・精神疾患と薬物治療	基礎病態解析学		
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				薬物動態の解析Ⅱ、臨床検査		
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)			神経・精神疾患と薬物治療			
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。						
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			循環器・腎疾患と薬物治療			
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			血液・造血器系疾患と薬物治療			
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			消化器系疾患と薬物治療			
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)				薬物動態の解析Ⅱ		医薬品をつくる特講
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			循環器・腎疾患と薬物治療			
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			生殖器・内分泌疾患と薬物治療			
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜炎						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			代謝性・呼吸器疾患と薬物治療			
2) 閉塞性気道疾患 (気管支喘息、肺気腫) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎 (かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。			生殖器・内分泌疾患と薬物治療			
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			代謝性・呼吸器疾患と薬物治療			
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			実習Ⅳ			
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			神経・精神疾患と薬物治療			
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物動態の解析Ⅱ		
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。			神経・精神疾患と薬物治療			
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬部治療		
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				骨・関節・アレルギー・免疫疾患と薬物治療		
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬部治療		
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				骨・関節・アレルギー・免疫疾患と薬物治療		
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				骨・関節・アレルギー・免疫疾患と薬物治療		
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 自己免疫疾患 (全身性エリテマトーデスなど) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				悪性腫瘍と薬物治療		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)				薬物動態の解析Ⅱ		
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。						
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。						
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						医薬品をつくる特講
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。						医薬品をつくる特講
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。						
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。						
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						医薬品をつくる特講
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。						
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						医薬品をつくる特講
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。						
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						医薬品をつくる特講
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
C15 薬物治療に役立つ情報							
(1) 医薬品情報							
【情報】							
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。			医薬品情報				
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。							
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。							
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。							
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。							
【情報源】							
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。							
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。							
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。				薬物動態の解析Ⅱ			
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。							
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）							
【収集・評価・加工・提供・管理】							
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				事前学習			
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報				
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）				事前学習			
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			医薬品情報				
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
【データベース】							
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報			薬学と社会特講	
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）							
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）							
【EBM (Evidence-Based Medicine)】							
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報				
2) EBM実践のプロセスを概説できる。							
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。							
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）							
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。							
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。							
【総合演習】							
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。				事前学習			
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）					薬学と社会特講		
(2) 患者情報							
【情報と情報源】							
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				患者情報		
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			調剤			
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)						
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】				テーラーメイド薬物治療		
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物動態の解析 II		
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			実習IV			
【投与計画】				テーラーメイド薬物治療		
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。						
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			製剤材料の性質				
3) 乳剤の型と性質について説明できる。							
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。							
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。							
【製剤材料の物性】							
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。							
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。					医薬品をつくる特講		
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。							
4) 粉体の性質について説明できる。			製剤材料の性質				
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。							
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。							
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。							
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)		実習Ⅲ			実習Ⅵ	医薬品をつくる特講	
(2) 剤形をつくる							
【代表的な製剤】							
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			剤形をつくる				
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。				実習Ⅵ		医薬品をつくる特講	
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。							
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。							
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。							
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。							
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。							
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。							
【製剤化】							
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。							
2) 単位操作を組み合わせる代表的製剤を調製できる。(技能)				実習Ⅵ			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						医薬品をつくる特講	
【製剤試験法】							
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。							
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)				実習Ⅵ	医薬品をつくる特講		
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)							
【DDSの必要性】							
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				DDS			
2) DDSの概念と有用性について説明できる。							
【放出制御型製剤】							
1) 放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明できる。							
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。							
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。							
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。							
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる							
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。							
【ターゲティング】							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 代表的なドラッグキャリアを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。						
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。						
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。						
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。						
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）						
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。						
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。						
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						

医薬品開発 II

医薬品開発 II

医薬品開発 II

調剤

医薬品開発 II

調剤

調剤

薬学と社会特講

医薬品開発 I

医薬品開発 I

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。		薬の作用と生体内運命					
【スクリーニング】							
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。		医薬品開発 I					
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。							
【リード化合物の最適化】							
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。		医薬品開発 I					
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。							
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。			調剤				
(3) バイオ医薬品とゲノム情報							
【組換え体医薬品】							
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				バイオ医薬品とゲノム情報			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。							
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			調剤				
【遺伝子治療】							
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)							
【細胞を利用した治療】							
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)							
【ゲノム情報の創薬への利用】							
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			調剤				
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。							
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。							
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。							
【疾患関連遺伝子】							
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。							
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。							
(4) 治験							
【治験の意義と業務】							
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			医薬品開発 II				
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。							
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。							
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。							
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)							
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。							
【治験における薬剤師の役割】							
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。							
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。							
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。							
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)							
(5) バイオスタティスティクス							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。						薬学と社会特講
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。						
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				医療の担い手の心構え		
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)				医薬品管理		
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。			法制度			
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						薬学と社会特講
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				医薬品管理		薬学と社会特講
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。						物理系薬学特講
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。						
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と 薬剤経済		
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。						
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。						
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				コミュニティ ファーマシー		
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。						
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。						
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)						
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

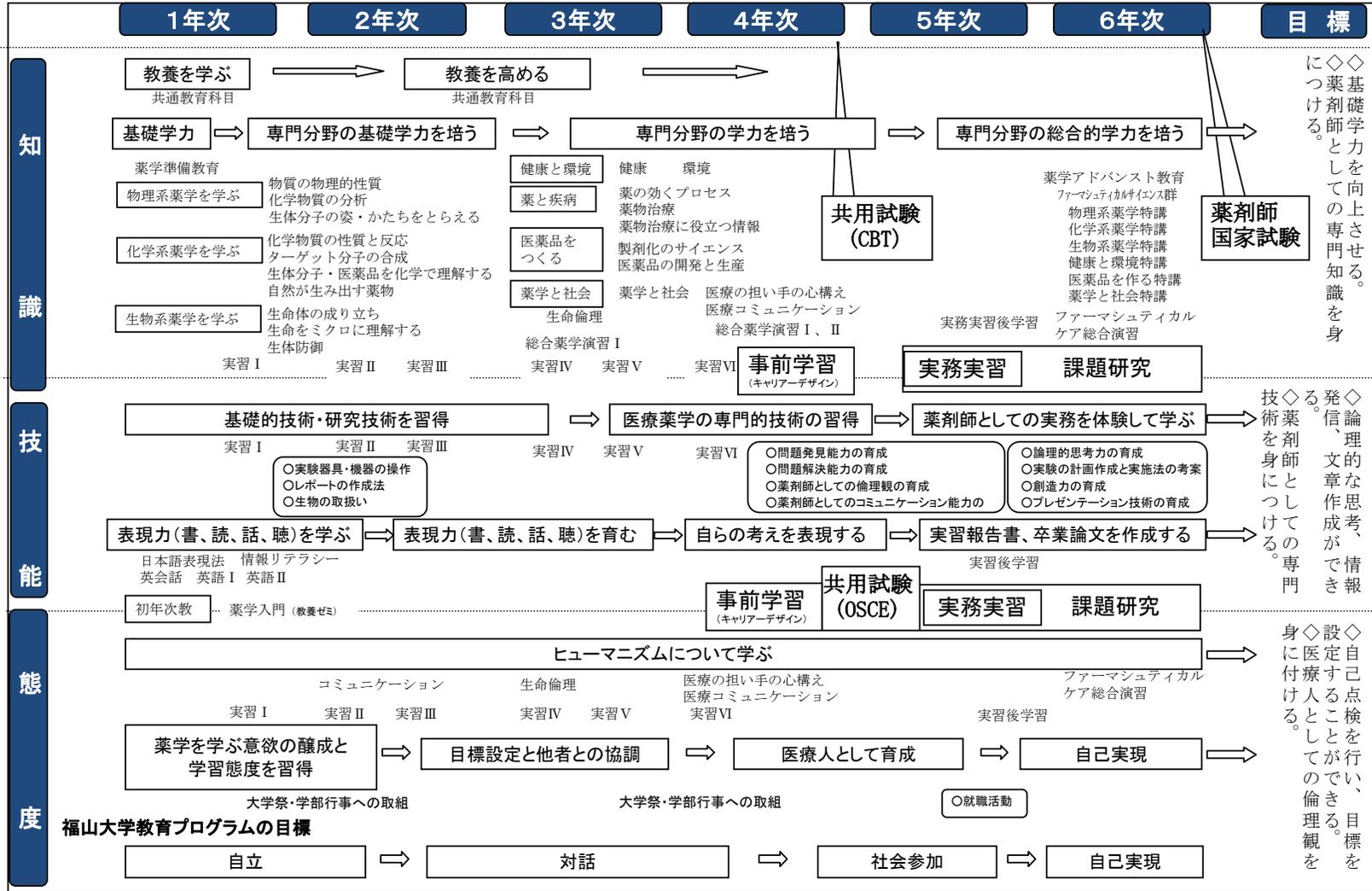
3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
D 実務実習教育		実務実習モデル・コアカリキュラムの事前学習に関するすべてのSBOsは4年次科目「事前学習」において学習している。また、これらの内容は別の科目でも学習している。		
(I) 実務実習事前学習				
(1) 事前学習を始めるにあたって				
《薬剤師業務に注目する》				
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	生命倫理		医療の担い手の心構え、総合薬学演習	事前学習
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。				
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)				
《チーム医療に注目する》				
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	調剤		医療の担い手の心構え、患者情報、総合薬学演習	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	調剤			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)				
《医薬分業に注目する》				
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		コミュニティーファーマシー、総合薬学演習		
(2) 処方せんと調剤				
《処方せんの基礎》				
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤	コミュニティーファーマシー、総合薬学演習		
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		総合薬学演習		
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		コミュニティーファーマシー、総合薬学演習		
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		総合薬学演習		
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)				
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。				
《医薬品の用法・用量》				
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	調剤	薬物動態の解析Ⅱ、臨床検査、テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習		
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)				
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。				
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)	調剤			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。				

(基礎資料4) カリキュラムマップ

- [注] 1 任意(大学独自)の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。
 2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

豊かな教養と確かな専門性を備えた人間性あふれる
 「薬のスペシャリスト」を目指す **薬学部教育プログラム**



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素
英語 (Ⅰ)	1	読み 書き
英語 (Ⅱ)	1	読み 書き
英会話 (Ⅰ)	1	聞く 話す
英会話 (Ⅱ)	1	聞く 話す
ドイツ語 (Ⅰ)	1	読み 書き 聞く 話す
薬学英语Ⅰ	2	読み 書き
薬学英语Ⅱ	2	読み 書き

[注] 要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

読み	読み
書き	書き
聞く	聞く
話す	話す

日	①チーム (54名)								②チーム (54名)								講義室			PC室		SGD		調剤実習室		クリーンルーム		製剤実習室
	A(27名)				B(27名)				C(27名)				D(27名)				総合演習室	医療薬学演習室1	医療薬学演習室2	医薬品情報室	TDM演習室	模擬病棟1~6	OSCE演習室1~6	調剤実習室1	調剤実習室2	クリーンルーム1	クリーンルーム2	製剤実習室
	1時限	2時限	3時限	4・5時限	1時限	2時限	3時限	4・5時限	1時限	2時限	3時限	4・5時限	1時限	2時限	3時限	4・5時限	(34416)	(34515)	(34516)	(34415)	(34509)	(4階)	(5階)	(34404)	(34405)	(34504)	(34505)	(34411)
第8日	10/9火		方略11: S209、S601、講義 教員1名(村上) 講義室x1	方略12: S602、講義 教員1名(村上) 講義室x1		同左	同左	10/9火		方略1: S101、S102、S103、講義・演習・SGD 教員4名(吉富、佐藤、五郎丸、近藤) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6		同左			CD	AB		CD		CD								
第9日	10/10水		方略13: S603、演習・SGD 教員6名(井上(教)、大西、田村、杉原、田淵、廣瀬) 講義室x1、SGD室x6	方略14: S603、ロールプレイ		同左	同左	10/10水		方略2: S104、S105、S106、S107、講義・演習・SGD 教員4名(吉富、佐藤、五郎丸、近藤)・TA2名 講義室x1、PC室x1、SGD室x6		同左			CD	AB		CD		CD	AB							
第10日	10/11木		方略15: S605、606、演習・SGD 教員6名(井上(教)、大西、田村、大橋、小嶋、松岡) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6	方略16: S605、606、ロールプレイ		同左	同左	10/11木		方略3: S201~S204、講義 教員1名(五郎丸) 講義室x1	方略4: S301、S303、S305、講義 教員1名(村上) 講義室x1		同左	同左	CD	AB			AB		AB							
第11日	10/15月		方略17: S605、606演習・SGD 教員6名(井上(教)、大西、田村、澁谷、町支、廣瀬) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6	方略18: S605、606、ロールプレイ		同左	同左	10/15月		方略5: S202~S208(3コマ)、S210、S306(1コマ)、演習 教員4名(吉富、佐藤、宇野、近藤)・TA4名 PC室x2、講義室x1、SGD室x6		同左			CD	AB		CD	ABCD	CD	AB							
第12日	10/16火		方略19: S605、606、演習・SGD 教員6名(井上(教)、大西、田村、石澤、井上(裕)、小嶋) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6	方略20: S605、606、ロールプレイ		同左	同左	10/16火		方略7: S210、実習 教員3名(吉富、佐藤、近藤)・TA4名 講義室x1、調剤室x2	方略8: S210、実習(実地試験) 教員(評価者)6名(吉富、佐藤、近藤、土谷、鶴田、西尾)・TA4名 講義室x1、調剤室x2	方略9: S210、実習 教員2名(宇野、大瀧) SGD室x6、講義室x1	方略10: S210、実習(実地試験) 教員(評価者)6名(宇野・大瀧、上敷領、日比野、廣瀬、藤岡、岡村) SGD室x6、講義室x1		C	AB	D		AB	D	AB	C	C					
第13日	10/17水		方略21: S605、606、演習・SGD 教員6名(井上(教)、大西、田村、澁谷、町支、本屋敷)・模擬患者3名 講義室x1、PC室x1、SGD室x6			同左	同左	10/17水		方略9: S210、実習 教員2名(宇野、大瀧) SGD室x6、講義室x1	方略10: S210、実習(実地試験) 教員(評価者)6名(宇野、大瀧、上敷領、日比野、廣瀬、藤岡) SGD室x6、講義室x1	方略7: S210、実習 教員3名(吉富、佐藤、近藤)・TA4名 講義室x1、調剤室x2	方略8: S210、実習(実地試験) 教員(評価者)6名(吉富、佐藤、近藤、土谷、鶴田、西尾)・TA4名 講義室x1、調剤室x2		D	AB	C		AB	C	AB	D	D					
第14日	10/18木		方略22: S401、S402、講義 教員1名(村上) 講義室x1	方略23: S407、講義 教員1名(本屋敷) 講義室x1	方略24: S403、S404、S405、講義 教員1名(大瀧) 講義室x1	同左	同左	同左	10/18木		方略6: S211、演習・SGD 教員3名(吉富、佐藤、近藤) 講義室x1、SGD室x6		同左		CD	AB					CD							

日	①チーム (54名)												②チーム (54名)												講義室			PC室		SGD		調剤実習室		クリーンルーム		製剤実習室
	A(27名)				B(27名)				C(27名)				D(27名)				総合演習室	医療薬学演習室1	医療薬学演習室2	医薬品情報室	TDM演習室	模擬病棟1~6	OSCE演習室1~6	調剤実習室1	調剤実習室2	クリーンルーム1	クリーンルーム2	製剤実習室								
	1時限	2時限	3時限	4・5時限	1時限	2時限	3時限	4・5時限	1時限	2時限	3時限	4・5時限	1時限	2時限	3時限	4・5時限	(34416)	(34515)	(34516)	(34415)	(34509)	(4階)	(5階)	(34404)	(34405)	(34504)	(34505)	(34411)								
第15日	10/23火	方略25:S406、実習・演習 教員3名(宇野、大瀧、太刀掛) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6				同左				同左				同左					AB			AB		AB												
第16日	10/24水	方略26:S414、講義 教員1名(大瀧) 31号館1階講義室x1	方略27:S411、実習 教員2名(大瀧、江藤) 31号館2階実習室x1			方略28:S408、S409、講義 教員1名(田中)	方略29:S410、実習 教員2名(金尾、田中)・TA2名 製剤室x1、PC室x1			方略11:S209、S601、講義 教員1名(村上)	方略12:S602、講義 教員1名(村上)	方略35:S501、S502、講義 教員1名(宇野)	方略36:S209、S503、S504、講義 教員1名(宇野)	同左	同左	同左	同左	B	CD		B							B								
第17日	10/25木	方略28:S408、S409、講義 教員1名(田中)	方略29:S410、実習 教員3名(金尾、田中)・TA2名 製剤室x1、PC室x1			方略26:S414、講義 教員1名(大瀧) 31号館1階講義室x1	方略27:S411、実習 教員2名(大瀧、江藤) 31号館2階実習室x1			方略37:S505、演習 教員3名(宇野、太刀掛、五郎丸) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6				同左				A		CD	A	CD			CD		A									
第18日	10/29月	方略30:S412、講義 教員1名(町支)	方略33:S413、講義 教員1名(大瀧)	方略34:S413、演習 教員4名(片山、本田、道原、岸田)・TA2名 講義室x1、製剤室x1		同左	同左	同左		方略40:S202~S208、S210、S306、実習 教員4名(吉富、佐藤、村上、近藤)・TA4名 講義室x1、PC室x2、SGD室x6				同左				AB	CD		CD	CD			CD		AB									
第19日	10/30火	方略32:S302(3コマ)、S412(0.5コマ)、実習 教員2名(五郎丸、江藤) 製剤室x1、PC室x1				同左				方略38:S506、演習・SGD 教員4名(宇野、大瀧、太刀掛、五郎丸) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6	同左																	A								
第20日	10/31水	方略35:S501、S502、講義 教員1名(宇野)	方略31:S411、実習 教員4名(片山、本田、道原、岸田)・TA2名 講義室x1、クリーンルームx2			同左	方略32:S302(3コマ)、S412(0.5コマ)、実習 教員2名(五郎丸、江藤) 製剤室x1、PC室x1			方略39:S507、演習・SGD 教員4名(宇野、大瀧、太刀掛、村上) 講義室x1、PC室x1、SGD室x6				同左				B	A	CD		CD			CD		A	A	B							
第21日	11/1木	方略36:S503、S504、講義 教員1名(宇野)	同左				方略31:S411、実習 教員4名(片山、本田、道原、岸田)・TA2名 講義室x1、クリーンルームx2				方略41:S306、実習・演習(実地試験) 教員9名(江藤、五郎丸、大瀧、塩見、町支、富田、兼、松岡、森田) SGD室x6、PC室x2				同左												AB	CD	CD	CD		B	B			

(基礎資料7) 学生受入状況における志願者数等について

	学科名	入試の種類		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	入学定員に対する入学者数の比率(6年間の平均)
薬学部	薬学	一般入試	志願者数	306	282	192	154	158	155	57.2
			合格者数	198	173	124	102	105	96	
			入学者数(A)	68	77	62	37	41	47	
			募集定員数(B)	86	86	86	86	86	86	
			A/B*100(%)	79.1	89.5	72.1	43.0	47.7	54.7	
		大学入試センター入試	志願者数	191	120	64	67	96	105	
			合格者数	53	45	20	61	85	92	
			入学者数(A)	7	8	6	14	14	24	
			募集定員数(B)	14	14	14	14	14	14	
			A/B*100(%)	50	57	43	100	100	171	
	AO入試	志願者数	—	4	1	3	11	4		
		合格者数	—	4	1	3	11	4		
		入学者数(A)	—	4	1	3	11	4		
		募集定員数(B)	—	若干名	若干名	20	20	20		
		A/B*100(%)	—			15.0	55.0	20.0		
	指定校推薦	志願者数	27	41	30	15	20	13		
		合格者数	27	41	30	15	20	13		
		入学者数(A)	27	41	30	15	20	13		
		募集定員数(B)	40	40	40	40	40	40		
		A/B*100(%)	67.5	102.5	75.0	37.5	50.0	32.5		
公募推薦入試	志願者数	132	55	30	47	26	35			
	合格者数	88	33	23	35	21	25			
	入学者数(A)	39	19	8	19	15	12			
	募集定員数(B)	60	60	60	40	40	40			
	A/B*100(%)	65.0	31.7	13.3	47.5	37.5	30.0			
学科計			志願者数	656	502	317	286	311	312	57.2
			合格者数	366	296	198	216	242	230	
			入学者数(A)	141	149	107	88	101	100	
			募集定員数(B)	200	200	200	200	200	200	
			A/B*100(%)	70.5	74.5	53.5	44.0	50.5	50.0	

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「入学定員に対する入学者」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	79 名
②設置基準において、必要な実務家教員数	6 名

		平成24年度																	
(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考													
教養教育	18(6)	7	4	3		教授18名のうち 6名が客員教授													
語学教育	3	2	3																
薬学基礎教育																			
専門薬学教育	29(3)	6	2	4	16	教授29名のうち 3名が客員教授 臨床系教員5名 臨床系客員教授2名													
実務実習教育																			
小計	50(9)	15	9	7	16														
専任教員数	97(9)																		
(事務職員の部)	局長	次長	部長	副部長	課長	課長補佐	参事	専門員	参与	係長	主任	事務員	その他の職種	備考					
大学業務関連	1	1	4(2)	3	11(1)	5	11(5)	1		6	4	20(8)	7(4)	技術:3 技能:4(4)					
法人業務関連	1		1						2(2)										
小計	2	1	5(2)	3	11(1)	5	11(5)	1	2(2)	6	4	20(8)	7(4)						
事務職員数	71(18)																		

- [注]
- 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
 - 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
 - 該当する場合は、()内に見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示:6(2)=6名のうち2名が特任)
 - 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示:3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
 - 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
 - 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	11	12	3	0	0	26
	0%	28.9%	31.6%	7.9%	0.0%	0.0%	68.4%
准教授	0	0	0	5	1	0	6
	0%	0.0%	0.0%	13.2%	2.6%	0.0%	15.8%
専任講師	0	0	0	0	2	0	2
	0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	5.3%
助教	0	0	0	0	4	0	4
	0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	10.5%
合計	0(0)	11(0)	12(2)	8(0)	7(0)	0(0)	38(2)
	0%	29.0%	32%(5.3%)	21.0%	18.0%	0.0%	100%(5.3%)
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年月日	現職就任 年月日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	医薬品化学	教授	ひびの さとし	男	67	1982.4.1	1985.4.1	有機化学入門	0.4						0.4			
								官能基の性質・反応・合成		0.5						0.5		
			生体分子・医薬品を化学で理解する					0.4						0.4				
			医薬品開発Ⅱ						0.4						0.4			
			実習Ⅰ										1.5		1.5			
			実習Ⅱ									1.5		1.5				
			事前学習										0.8		0.8			
			薬学と社会特講					0.2						0.2				
			ファーマシューティカルケア総合演習							0.2				0.2				
			総合薬学演習Ⅰ								0.1				0.1			
			総合薬学演習								0.1				0.1			
			実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)									1.2	1.2	1.2	1.2			
			実務実習後学習							0.4	0.4			0.4	0.4			
			医療薬学演習								0.1				0.1			
			課題研究									4.5	4.5	4.5	4.5			
計	1.0	0.9	0.6	0.7	7.2	8.0	8.8	9.6	9.2	東北大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士								

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目											年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号
								科目名	毎週授業時間数											
									講義		演習		実験・実習・実技		計					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科	薬理学	教授	しおみ ひろひと	男	67	1983.4.1	1983.4.1	薬の作用と生体内運命	1.2							1.2				
								薬物作用の基礎		1.2							1.2			
			神経・精神疾患と薬物治療						1.2								1.2			
			眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬物治療					1.2								1.2				
			コミュニケーション					1.0								1.0				
			ファーマシューティカルケア総合演習							0.2						0.2				
			課題研究							4.5	4.5					4.5	4.5			
			医療薬学演習								0.1						0.1			
			総合薬学演習								0.1						0.1			
			実務実習後学習							0.4	0.4					0.4	0.4			
			実習Ⅳ										2.2			2.2				
			実習Ⅳ(～H21)										2.3			2.3				
			事前学習												1.0		1.0			
			実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)										5.1	5.1	5.1	5.1				
計	3.4	2.4	5.1	5.1	9.6	6.1	18.0	13.5	15.8											

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科		教授	にしお ひろあき 西尾 廣 昭	男	66	1998.4.1	1998.4.1	生体活性分子とシグナル分子	0.4						0.4			
								生体機能調節	0.4					0.4				
								薬学英語 I	0.2					0.2				
								消化器系疾患と薬物治療	0.3					0.3				
								血液・造血器系疾患と薬物治療		0.8					0.8			
								人体の構造と機能 II		1.5					1.5			
								実習IV					2.2		2.2			
								課題研究			4.5	4.5			4.5	4.5		
								事前学習						1.0		1.0		
								総合薬学演習 I				0.1				0.1		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)			2.5	2.5			2.5	2.5		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.8				0.8			
								医薬品を作る特講	0.1						0.1			
								医療薬学演習				0.1				0.1		
セルフメディケーション	0.3						0.3											
計	1.7	2.3	8.2	7.6	2.2	1.0	12.1	10.9	11.5									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	天然物薬品 化学	教授	しづや ひろたか 澁谷 博孝	男	64	1992.4.1	1992.4.1	薬になる動植物	0.1						0.1			
								薬物の宝庫としての天然物	0.6						0.6			
								天然物化学		0.8						0.8		
								実習Ⅲ						2.7		2.7		
								事前学習							0.7		0.7	
								総合薬学演習Ⅰ				0.1						
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.1	1.1	1.1	1.1		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.2					0.2		
								医療薬学演習				0.1						0.1
課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5										
計	0.6	0.8	0.2	0.2	6.0	9.4	6.7	9.3	8.0									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物動態学	教授	かねおよしはる 金尾義治	男	63	1983.5.1	1989.4.1	DDS	0.3						0.3		九州大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士	
								基礎病態解析学	0.1						0.1			
								薬物の臓器への到達と消失	1.2						1.2			
								薬学英語 II		0.3						0.3		
								薬物動態の解析 I		1.0						1.0		
								実習 IV					2.3	2.3	2.3	2.3		
								事前学習		3.6						3.6		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
								医療薬学演習				0.1				0.1		
								総合薬学演習				0.1				0.1		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)		2.4						2.4		
								計	1.6	7.3		0.2	7.2	7.2	8.8	14.7		11.8

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	医療薬理学	教授	よしとみ ひろのり 吉富博則	男	63	1983.9.1	1989.4.1	調剤		0.6						0.6	九州大学 薬学部製薬化 学科卒業 薬学博士	
								薬物動態の解析Ⅱ	1.3					1.3				
								臨床検査	0.5					0.5				
								医療の担い手の心構え	0.4					0.4				
								コミュニティファーマシー		0.2					0.2			
								コミュニケーション	0.7					0.7				
								課題研究			4.5	4.5			4.5	4.5		
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1			
								医療薬学演習			0.1				0.1			
								事前学習						7.8		7.8		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					4.6	4.6	4.6	4.6		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.2				0.2			
計	2.9	0.8	5.3	4.9	4.6	12.4	12.8	18.1	15.5									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	分子 微生物学	教授	ふくながまさひと	男	62	1986.4.1	1991.4.1	薬学英語 I	0.3						0.3			
								小さな生き物たち		1.5						1.5		
			感染症にかかる					1.2						1.2				
			病原微生物とたたかう						1.2					1.2				
			コミュニケーション							1.0				1.0				
			実習Ⅲ															
			課題研究								4.5	4.5	4.5	4.5				
			医療の担い手の心構え					0.3						0.3				
			事前実習									0.5		0.5				
			総合薬学演習Ⅰ								0.1			0.1				
			総合薬学演習								0.1			0.1				
			実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)							1.0	1.0			1.0	1.0			
			実務実習後実習							0.4	0.4			0.4	0.4			
			ファーマシューティカルケア総合演習							0.2				0.2				
			生物系薬学特講					0.1						0.1				
			医薬品を作る特講					0.1						0.1				
医療薬学演習				0.1				0.1										
計	2.0	2.7	2.6	1.7	4.5	5.0	9.1	9.4	9.3	静岡薬科大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士								

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号			
								科目名	毎週授業時間数											
									講義		演習		実験・実習・実技		計					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期		
薬学科	臨床分析化学	教授	つるた やすと 鶴田 泰人	男	62	1983.4.1	1993.4.1	化学平衡	0.4						0.4					
								コミュニケーション	1.1						1.1					
								生体中の金属・分子を解析する方法	0.6						0.6					
								薬局方収載の試験法	0.8						0.8					
								薬物動態の解析Ⅱ	0.5						0.5					
								臨床検査	0.7						0.7					
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.8					0.8				
								総合薬学演習				0.1						0.1		
								医療薬学演習					0.1						0.1	
								実習Ⅱ						1.5				1.5		
								実習Ⅲ								1.5			1.5	
								事前実習								1.0			1.0	
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)							1.5	1.5	1.5	1.5		
								実務実習後学習							0.4	0.4	0.4	0.4		
課題研究							4.5	4.5	4.5	4.5										
計	4.1		0.8	0.2	7.8	8.8	12.7	9.0	10.9											

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	分子微生物学	教授 (実務家)	うのかつじ 宇野 勝次	男	61	2007.4.1	2007.4.1	薬学入門			0.8	0.8			0.8	0.8	17.6	県立静岡薬科大学 微生物研究科 博士課程修了 薬学博士
								生体防御 I	0.3		0.1				0.4			
								生体防御 II		0.8		0.2				1.0		
								微生物とたたかう		0.3		0.1				0.4		
								骨・関節、アレルギー・免疫疾患 と薬物治療	1.3		0.2				1.5			
								テーラーメイド薬物治療	0.4		0.1				0.5			
								医療の担い手の心構え	0.3						0.3			
								基礎病態解析学	0.1						0.1			
								総合学習演習 I			0.2				0.2			
								総合学習演習				0.2				0.2		
								生物系特講	0.1						0.1			
								医療薬学演習	0.3	0.3	0.2				0.5	0.3		
								ファーマシューティカルケア総合 演習	0.4		0.6				1.0			
								事前学習			0.8			5.2	0.8	5.2		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					5.7	5.7	5.7	5.7		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5										
計	3.2	1.4	3.0	1.3	10.6	15.8	16.8	18.5										

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	有機薬化学	教授	ふじおかはると 藤岡 晴人	男	61	1983.10.1	1998.4.1	薬学英語Ⅱ		0.3						0.3	9.2	広島大学 大学院 医薬系研究科 博士課程 単位修得後 中途退学 薬学博士
								ターゲット分子の合成		0.6						0.6		
								物質の基本概念A	0.6						0.6			
								有機化合物の骨格と性質		0.6					0.6			
								官能基と構造解析	0.6						0.6			
								医薬品開発Ⅰ		0.3					0.3			
								化学系薬学特講	0.2						0.2			
								医療薬学演習			0.1				0.1			
								課題研究							4.5	4.5		
								総合薬学演習Ⅰ				0.1				0.1		
								実務実習後学習				0.4				0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.2					0.2		
								事前学習							0.8	0.8		
								実習Ⅰ							0.8	0.8		
								実習Ⅱ 実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.5			1.5		
					1.2	1.2	1.2	1.2										
計								8.9	9.6									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	生化学	教授	もりた てつお 森田 哲生	男	61	1988.10.1	1994.4.1	生命活動を担うタンパク質	1.2						1.2			
								生殖器・内分泌疾患と薬物治療	0.6						0.6			
								生物系薬学特講	0.2						0.2			
								細胞を構成する分子		0.8						0.8		
								代謝性・呼吸器疾患と薬物治療		0.6						0.6		
								生命活動を担う遺伝子		0.2						0.2		
								医療薬学演習			0.1					0.1		
								総合薬学演習Ⅰ			0.1					0.1		
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.2					0.2		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)				1.8	1.8	1.8	1.8			
								実務実習後学習				0.4	0.4	0.4	0.4			
								課題研究				4.5	4.5	4.5	4.5			
								事前学習					1.0		1.0			
実習Ⅴ					4.4		4.4											
計	2.0	1.6	0.2	0.2	6.7	13.1	8.9	14.9	11.9	千葉大学 大学院 医学研究科 博士課程修 了 医学博士								

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	製剤物理化学	教授	とみだ ひさお	男	60	1982.10.1	1995.4.1	薬学の基礎としての数学・統計A	1.2						1.2			
								薬学の基礎としての数学・統計B		0.8					0.8			
			物質の状態Ⅱ						1.2					1.2				
			物質の変化					0.6					0.6					
			製剤材料の性質					1.2					1.2					
			物理系薬学特講					0.2					0.2					
			医薬品をつくる特講					0.2					0.2					
			総合薬学演習Ⅰ								0.1			0.1				
			課題研究							4.5	4.5			4.5	4.5			
			実務実習後学習							0.4	0.4			0.4	0.4			
			ファーマシューティカルケア総合演習							0.2				0.2				
			実習Ⅱ									1.5		1.5				
			実習Ⅲ										1.5		1.5			
			事前学習										1.0		1.0			
			実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)									1.2	1.2	1.2	1.2			
物理学実習 (教職)					0.2		0.2											
計	3.4	2.0	5.1	5.0	2.9	3.7	11.4	10.7	11.0	名古屋市立 大学大学院 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士								

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目										年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	漢方薬物解析学	教授	おかむらのぶゆき 岡村信幸	男	58	1984.4.1	2000.4.1	漢方薬物Ⅰ	1.2						1.2				
								漢方薬物Ⅱ		1.2						1.2			
								薬学入門Ⅰ	3.0						3.0				
								薬学入門Ⅱ		3.0						3.0			
								薬になる動植物	1.2						1.2				
								コミュニケーション	3.0						3.0				
								薬物動態の解析Ⅱ	0.8						0.8				
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.4				0.4				
								課題研究			4.5	4.5			4.5	4.5			
								医療薬学演習				0.1				0.1			
								総合薬学演習Ⅰ				0.1				0.1			
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4			
								実習Ⅲ						2.7		2.7			
								事前学習						0.9		0.9			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					3.0	3.0	3.0	3.0			
計	9.2	4.2	5.3	5.1	3.0	6.6	17.4	15.8	16.6	九州大学 大学院 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科	生体機能解析	教授	いしづ たかし 石津 隆	男	58	1983.4.1	2002.4.1	物質の基本概念 A	0.6							0.6			
								官能基の性質・反応・合成		0.6								0.6	
								官能基と構造解析	0.6									0.6	
								医薬品開発 I		0.5								0.5	
								生体分子、医薬品を化学で理解する	0.2									0.2	
								医薬品開発 II		0.1								0.1	
								法制度		0.1								0.1	
								医薬品管理	0.9									0.9	
								化学系薬学特講	0.2									0.2	
								薬学と社会特講	0.1									0.1	
								総合薬学演習 I				0.1						0.1	
								事前学習				0.9						0.9	
								実務実習後学習				0.4						0.4	
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.4							0.4	
								医療薬学演習			0.1							0.1	
								課題研究			4.5	4.5						4.5	4.5
								実習 I									1.5		1.5
実習 II								1.5		1.5									
実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)								1.3	1.3	1.3	1.3								
計	2.6	1.3	5.0	5.9	2.8	2.8	10.4	10.0	10.2										

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬剤情報解析学	教授 (実務家)	えとう せいじ 江藤 精二	男	57	1980.4.1	2003.4.1	調剤		0.1						0.1	16.2	九州大学 薬学研究科 修士課程修了 薬学博士
								基礎病態解析学	0.1					0.1				
								患者情報	0.8					0.8				
								悪性腫瘍と薬物治療	0.4					0.4				
								実習IV					0.7		0.7			
								事前実習						5.0		5.0		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					7.1	7.1	7.1	7.1		
								実務実習後学習				0.4	0.4		0.4	0.4		
								医療薬学演習			0.1	0.1			0.1	0.1		
								総合薬学演習			0.1				0.1			
								総合薬学演習 I				0.1				0.1		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.8				0.8			
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
計	1.3	0.1	1.0	0.6	12.7	16.6	15.0	17.3										

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬剤設計学	教授	かたやま ひろかず 片山 博和	男	56	1985.4.1	2000.4.1	DDS	0.3						0.3			
								医薬品情報	0.7						0.7			
								剤形をつくる		0.8						0.8		
								コミュニティーファーマシー		0.2						0.2		
								医薬品開発Ⅱ		0.2						0.2		
								事前学習						1.6		1.6		
								実習Ⅳ	1.2						1.2			
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.4					0.4		
								総合薬学演習				0.1				0.1		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					10.9	10.9	10.9	10.9		
								実務実習後学習			0.4	0.4				0.4	0.4	
								医薬品をつくる特講	0.1							0.1		
								薬学と社会特講	0.2							0.2		
医療薬学演習				0.1					0.1									
計	2.5	1.2	0.8	0.6	15.4	17.0	18.7	18.8	18.8									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	免疫生物学	教授	あかさき けんじ 赤崎 健司	男	56	1985.4.1	2006.4.1	薬学の基礎としての生物A	0.6						0.6		九州大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士	
								生命体の基本単位としての細胞		1.2						1.2		
								薬学英語Ⅱ		0.3						0.3		
								生活環境と健康	1.1						1.1			
								社会・集団と健康	1.1						1.1			
								健康と環境特講	0.4						0.4			
								総合薬学演習Ⅰ				0.1				0.1		
								総合薬学演習				0.1				0.1		
								課題研究			4.5	4.5			4.5	4.5		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.2				0.2			
								実習Ⅳ					1.8		1.8			
								事前学習						1.0		1.0		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					2.5	2.5	2.5	2.5		
計	3.2	1.5	5.1	5.1	4.3	3.5	12.6	10.1	11.4									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
							科目名	毎週授業時間数									
								講義		演習		実験・実習・実技		計			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科		教授 (実務家)	おおはま おさむ 大濱 修	男	65	2007.11.6	2007.11.6	セルフメディケーション	0.3						0.3		
								テーラーメイド薬物治療	0.5						0.5		
								基礎病態解析学	0.1						0.1		
								生命倫理		0.9						0.9	
								ファーマシューティカルケア総合 演習					0.8		0.8		
								事前学習						6.7		6.7	
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					8.6	8.6	8.6	8.6	
								医療薬学演習		0.1						0.1	
								計	0.9	1.0	0.0	0.0	9.4	15.3	10.3	16.3	13.3

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬品物理化学	教授	ひろせ じゅんぞう 廣瀬順造	男	64	2008.4.1	2008.4.1	生体分子の立体構造	0.6						0.6			
								実感する化学	1.5					1.5				
								化学の基礎B	0.8					0.8				
								臨床検査	0.2		0.5			0.7				
								物理学概論	0.4					0.4				
								物理学実習					0.2	0.2				
								実習Ⅱ 物理化学系実習					1.5	1.5				
								物質の基本概念B		1.2				1.2				
								生体中の金属、分子を解析する方法		0.3				0.3				
								薬学の基礎としての物理		0.2				0.2				
								実習Ⅲ 物理化学系実習					1.5	1.5				
								事前実習					0.8	0.8				
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					0.6	0.6	0.6	0.6		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								医療薬学演習			0.1			0.1				
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.8			0.8				
								総合薬学演習Ⅰ			0.1			0.1				
総合薬学演習			0.1			0.1												
課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5										
計	3.5	1.7	1.3	0.3	7.2	7.8	12.0	9.7	10.9									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	衛生化学	教授	すぎはら なるみ 杉原 成美	女	55	1983.4.1	2008.4.1	薬学の基礎としての生物	0.7						0.7			
								疾病の予防	1.3						1.3			
								食品衛生		0.7						0.7		
								化学物質の生体への影響		0.7						0.7		
								化学物質の分析、臨床応用		0.3						0.3		
								セルフメディケーション	0.3							0.3		
								日本事情Ⅱ		0.1						0.1		
								ファーマシューティカルケア総合 演習	1.0							1.0		
								CBT対策			0.3	0.3				0.3	0.3	
								国試対策			0.7	0.7				0.7	0.7	
								実習Ⅳ					6.6			6.6		
								事前学習						0.7			0.7	
								医療薬学演習				0.1					0.1	
								総合薬学演習				0.1					0.1	
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.1	1.1	1.1	1.1		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
計	3.3	1.8	1.0	1.2	12.5	6.6	16.8	9.6	13.2									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物動態学	教授	たなか てつろう 田中哲郎	男	57	1983.4.1	2009.4.1	物理学概論	0.6						0.6			
								薬学英語Ⅱ		0.3					0.3			
								剤形をつくる		0.7					0.7			
								薬物の臓器への到達と消失	0.3						0.3			
								薬物動態の解析Ⅰ		0.5					0.5			
								実習Ⅳ(含薬物治療演習)					6.6		6.6			
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1			
								薬物動態の解析Ⅱ	0.7						0.7			
								DDS	0.3						0.3			
								臨床検査	0.5						0.5			
								テーラーメイド薬物療法	0.4						0.4			
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1			
								総合薬学演習			0.1				0.1			
								医薬品をつくる特講	1.5						1.5			
								事前学習						4.0	4.0			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					2.6	2.6	2.6	2.6		
								実務実習後学習					0.02	0.02	0.02	0.02		
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.1				0.1			
								医療薬学演習			0.1				0.1			
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
計	4.3	1.5	0.1	0.3	13.7	11.1	18.1	12.9	13.6									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	天然物薬品 化学	教授	おおはし かずよし 大橋 一慶	男	52	1994.7.1	2009.4.1	薬学英語	0.2						0.2			
								薬物の宝庫としての天然物	0.6						0.6			
								天然物化学		0.4						0.4		
								化学の基礎 A	0.8						0.8			
								有機化学入門 B		0.0								
								実習Ⅲ						2.7		2.7		
								事前学習						1.0		1.0		
								総合薬学演習				0.1				0.1		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.4	1.4	1.4	1.4		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.2				0.2			
								医療薬学演習				0.1				0.1		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
計	1.6	0.4	0.2	0.2	6.3	10.0	8.0	10.5	9.3									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科	薬物治療学	教授	いのうえ あつこ 井上敦子	女	56	2009.4.1	2009.4.1	循環器・腎疾患と薬物治療		0.8						0.8	13.5	広島大学 薬学研究科 修士課程修 了 薬学博士	
								生理活性分子とシグナル分子	0.4						0.4				
								生体機能調節	0.5						0.5				
								消化器系疾患と薬物治療	0.4						0.4				
								コミュニケーション			0.2				0.2				
								実習IV					1.2		1.2				
								事前学習				0.4				0.4			
								総合薬学演習 I			0.1					0.1			
								課題研究			4.5	4.5				4.5			4.5
								総合薬学演習			0.5					0.5			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					3.5	3.5	3.5	3.5			
								実務実習後学習					0.1	0.1	0.1	0.1			
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.3					0.3			
								医療薬学演習				1.5							1.5
								薬学の基礎となる生物B	3.0							3.0			
自然と人間A	1.5							1.5											
計	5.8	0.8	5.0	7.0	4.8	3.6	15.6	11.4											

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬理学	教授	たむら ゆたか 田村 豊	男	49	1989.4.1	2009.4.1	悪性腫瘍と薬物治療	0.8						0.8			
								人体の構造と機能 I	1.5						1.5			
								生殖器内分泌疾患と薬物治療	1.5						1.5			
								コミュニケーション	3.0						3.0			
								ファーマシューティカルケア総合演習	0.8						0.8			
								医薬品をつくる	0.3						0.3			
								代謝性・呼吸器疾患と薬物治療		1.5						1.5		
								人体の構造と機能 II		1.5						1.5		
								実習IV						0.8		0.8		
								事前学習						1.0		1.0		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.2	1.2	1.2	1.2		
								総合薬学演習				0.1				0.1		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								医療薬学演習				0.1				0.1		
課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5										
計	7.9	3.0	0.0	0.2	6.1	7.9	14.0	11.1	12.6									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	医療薬剤学	教授 (実務家)	さとう えいじ 佐藤英治	男	45	2003.4.1	2011.4.1	調剤		0.3					0.0	0.3	20.1	広島大学 大学院 医学系研究科 博士課程修了 博士(薬学)
								薬学入門Ⅰ	0.8					0.8	0.0			
								薬学入門Ⅱ		0.8				0.0	0.8			
								法制度		0.2				0.0	0.2			
								人体の構造と機能Ⅱ		1.5				0.0	1.5			
								薬物動態の解析Ⅱ	0.5					0.5	0.0			
								基礎病態解析学	0.1					0.1	0.0			
								臨床検査	0.5					0.5	0.0			
								薬学と社会特講	0.1					0.1	0.0			
								課題研究			4.5	4.5		4.5	4.5			
								総合薬学演習Ⅰ			0.1			0.1	0.0			
								総合薬学演習			0.1			0.1	0.0			
								実務実習後学習			0.4	0.4		0.4	0.4			
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.8			0.8	0.0			
								医療薬学演習			0.1			0.0	0.1			
								事前学習					8.4	0.0	8.4			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					8.0	8.0	8.0	8.0		
計	2.0	2.8	5.9	5.0	8.0	16.4	15.9	24.2										

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	医薬品化学	教授	ちょうし とみなり 町支臣成	男	48	1991.4	2011.4	有機化学入門A	0.8						0.8			
								有機化合物の骨格と性質		0.5						0.5		
								ターゲット分子の合成		0.6						0.6		
								生体分子・医薬品を化学で理解する	0.6							0.6		
								医薬品管理	0.3							0.3		
								実習 I						0.8		0.8		
								実習 II					1.5		1.5			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)				0.5	0.5	0.5	0.5			
								化学系薬学特講	0.2							0.2		
								ファーマシューティカルケア総合演習	0.8							0.8		
								医療薬学演習				0.1				0.1		
								総合薬学演習 I				0.1				0.1		
								事前学習						0.1		0.1		
課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5										
計	2.7	1.1	0.0	0.2	6.5	5.9	9.2	7.2	8.2									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

岡山大学
大学院
薬学研究科
修士課程修了
博士(薬学)

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬品分析化学	准教授	こじま えいじろう 小嶋英二郎	男	49	2007.4.1	2007.4.1	コミュニケーション	1.4						1.4			
								化学物質の検出と定量	0.6						0.6			
								化学物質の分析、臨床応用		0.6						0.6		
								生体中の金属・分子を解析する方法		0.3						0.3		
								法制度		0.1						0.1		
								臨床検査	1.1						1.1			
								薬物動態の解析Ⅱ	0.5						0.5			
								実習Ⅱ					1.5		1.5			
								実習Ⅲ						1.5		1.5		
								課題研究				4.5	4.5	4.5	4.5			
								事前学習					1.0		1.0			
								総合薬学演習			0.1				0.1			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)				1.8	1.8	1.8	1.8			
								実務実習後学習				0.4	0.4	0.4	0.4			
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.8				0.5			
								医療薬学演習				0.1			0.1			
								総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.1			
物理学実習(教職)				0.3			0.3											
薬学入門Ⅰ	0.8						0.8											
薬学入門Ⅱ		0.8					0.8											
計	4.4	1.8	0.9	0.2	8.4	9.1	13.4	11.1	12.3	九州大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士								

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	放射薬品化学	准教授	もとやしき としお 本屋敷 敏雄	男	46	1992.4.1	2007.4.1	物質の構造Ⅱ	0.6						0.6	0.0	9.3	福山大学 大学院 薬学研究科 修士課程修 了 博士(薬 学)
								生体エネルギー		0.7					0.0	0.7		
								細胞を構成する分子		0.4					0.0	0.4		
								生命体の基本単位としての細胞		0.1					0.0	0.1		
								実習Ⅳ					2.2		2.2	0.0		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
								事前学習						0.8	0.0	0.8		
								総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.0	0.1		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.5	1.5	1.5	1.5		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習				0.2			0.2	0.0		
								生物系薬学特講	0.2						0.2	0.0		
								医療薬学演習				0.1			0.0	0.1		
								国試対策				0.5			0.5	0.0		
総合薬学演習				0.1			0.0	0.1										
計	0.8	1.2	0.7	0.3	8.5	7.1	10.0	8.6										

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	臨床分析化学	准教授	いのうえ ひろふみ 井上裕文	男	42	1994.4.1	2009.4.1	化学平衡		0.8						0.8	15.0	福山大学 薬学研究科 修士課程修了 博士(薬学)
								化学物質の検出と定量	0.6					0.6				
								薬局方収載の試験法	0.4					0.4				
								薬学入門Ⅰ	1.5					1.5				
								薬学入門Ⅱ		1.5					1.5			
								コミュニケーション	1.1					1.1				
								実習Ⅱ					1.5		1.5			
								実習Ⅲ						1.5	1.5			
								事前学習					1.0		1.0			
								総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.1			
								総合薬学演習				0.1			0.1			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					4.4	4.4	4.4	4.4		
								実務実習後学習						0.4		0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.8				0.8			
								医療薬学演習			0.1					0.1		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
								化学の基礎			0.8					0.8		
計	3.6	3.1	0.8	0.3	10.4	11.8	14.8	15.1										

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬品物理化学	准教授	はた としゆき 秦 季之	男	42	1996.9.1	2010.4.1	薬学の基礎としての物理		1.0						1.0	豊橋技術科学 大学 工学研究科 修士課程修了 博士(薬学)	
								物質の構造 I	1.2					1.2				
								物質の状態 I		1.2					1.2			
								生体分子の立体構造	0.6					0.6				
								物質の変化	0.6					0.6				
								実習 II					1.5		1.5			
								実習 III						1.5	1.5			
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.8				0.8			
								事前学習						1.0	1.0			
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
								総合薬学演習				0.1			0.1			
								総合薬学演習 I				0.1			0.1			
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					2.2	2.2	2.2	2.2		
								実務実習後学習					0.4	0.4	0.4	0.4		
								医療薬学演習				0.1			0.1			
								物理系薬学特講	0.3						0.3			
								物理学概論	0.5	0.5					0.5	0.5		
物理学実習					0.15	0.15	0.2	0.2										
計	3.2	2.7	0.8	0.3	8.7	9.7	12.7	12.6	12.7									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	免疫生物学	准教授	みちはら あきひろ 道原明宏	男	41	1998.4.1	2011.4.1	薬学入門Ⅰ	2.0						2.0			
								薬学入門Ⅱ		2.0						2.0		
								コミュニケーション	2.4						2.4			
								社会・集団と健康	0.7						0.7			
								人体の構造と機能Ⅱ		1.5						1.5		
								生体エネルギー		0.7						0.7		
								化学物質の生体への影響		0.8						0.8		
								化学の基礎		0.8						0.8		
								健康と環境特講	0.4						0.4			
								医療薬学演習			0.1	0.1			0.1	0.1		
								総合薬学演習Ⅰ			0.1	0.1			0.1	0.1		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								事前学習						1.6		1.6		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.5	1.5	1.5	1.5		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
実習Ⅳ	0.2		0.6		1.2		2.0											
計	5.7	5.8	1.2	0.6	7.2	7.6	14.0	13.9	14.0									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬剤情報解析学	准教授 (実務家)	ごろうまる たけし 五郎丸 剛	男	41	2005.4.1	2012.4.1	コミュニケーション	1.0						1.0			
								調剤		0.2							0.2	
								患者情報	0.7							0.7		
								社会保障制度と薬剤経済	0.7							0.7		
								基礎病態解析学	0.1							0.1		
								総合薬学演習 I				0.1					0.1	
								課題研究			4.5	4.5				4.5	4.5	
								実務実習後学習			0.4	0.4				0.4	0.4	
								医療薬学演習				0.1					0.1	
								実習IV					0.7			0.7		
								事前学習							6.5		6.5	
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					4.4	4.4	4.4	4.4		
計	2.5	0.2	4.9	5.1	5.1	10.9	12.4	16.1	14.3									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	分子微生物学	講師	たぶち のりひこ 田淵紀彦	男	40	2000.4.1	2012.10.6	生体防御Ⅰ	0.8						0.8			
								生体防御Ⅱ		0.2							0.2	
								薬学入門Ⅰ	1.5							1.5		
								薬学入門Ⅱ		1.5							1.5	
								小さな生き物たち		0.6							0.6	
								IT	1.5							1.5		
								生物学概論	0.3	0.4						0.3	0.4	
								事前学習				1.0					1.0	
								生物系薬学特講				0.1					0.1	
								医療薬学演習				0.1					0.1	
								総合薬学演習Ⅰ				0.1					0.1	
								実務実習後学習				0.4	0.4				0.4	0.4
								実習Ⅴ								3.0		3.0
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)								1.2	1.2	1.2
課題研究								4.5	4.5	4.5	4.5							
計	4.1	2.7	0.5	1.6	5.7	8.7	10.3	13.0	11.6									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物治療学	講師	つちや だいじゅ 土谷 大樹	男	33	2007.4.1	2012.4.1	生体機能調節	0.4						0.4			
								生理活性分子とシグナル分子	0.4						0.4			
								コミュニケーション	0.7						0.7			
								消化器系疾患と薬物治療	0.2						0.2			
								循環器・腎疾患と薬物治療		0.6						0.6		
								IT			1.5				1.5			
								課題研究			4.5	4.5			4.5	4.5		
								総合薬学演習 I				0.1				0.1		
								総合薬学演習				1.2				1.2		
								ファーマシューティカルケア総合演習			1.0				1.0			
								医療薬学演習				0.1				0.1		
								実習IV					2.2		2.2			
								事前学習						1.0		1.0		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					0.8	0.8	0.8	0.8		
計	1.7	0.6	7.0	5.9	3.0	1.8	11.7	8.3	10.0									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	ゲノム創薬 科学	助教	まつおか ひろし 松岡 浩史	男	32	2008.4.1	2009.4.1	コミュニケーション	0.7						0.7			
								遺伝子を操作する	0.9						0.9			
								生物学概論	0.3	0.4					0.3	0.4		
								総合薬学演習				0.2				0.2		
								総合薬学演習 I				0.1				0.1		
								医療薬学演習				0.1				0.1		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)			0.4	0.4			0.4	0.4		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			1.1				1.1			
								事前学習						1.0		1.0		
								実習 V (生物系)						4.5		4.5		
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
計	1.9	0.4	1.9	1.2	4.5	10.0	8.3	11.6	10.0									

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物治療学	助教	おおにし まさとし 大西正俊	男	34	2009.4.1	2010.4.1	薬学英語 I	0.3						0.3			
								生体防御 I	0.5						0.5			
								生体防御 II		0.5						0.5		
								コミュニケーション	0.2						0.2			
								実習IV					1.2		1.2			
								医療コミュニケーション		1.5						1.5		
								事前学習				0.4				0.4		
								課題研究			4.5	4.5			4.5	4.5		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					1.0	1.0	1.0	0.5		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								ファーマシューティカルケア総合 演習			0.3				0.3			
								医療薬学演習						0.1		0.1		
								セルフメディケーション	0.3						0.3			
計	1.0	2.0	5.2	5.3	2.2	1.1	8.7	7.2	7.95									

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	衛生化学	助教	かみしきりょう じゅん 上敷領 淳	男	32	2010.4.1	2011.4.1	疾病の予防	0.2						0.2			
								セルフメディケーション	0.5						0.5			
								I T	1.5						1.5			
								食品衛生		0.6						0.6		
								ファーマシューティカルケア総合演習			0.6					0.6		
								医療薬学演習				0.1				0.1		
								実務実習後学習			0.4	0.4			0.4	0.4		
								実習Ⅳ					6.6		6.6			
								課題研究					4.5	4.5	4.5	4.5		
								事前学習						1.0		1.0		
								実務実習 (病院実務実習、薬局実務実習)					0.7	0.7	0.7	0.7		
								計	2.2	0.6	1.0	0.5	11.8	6.2	15.0	7.3	11.1	

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	108名
5年生の在籍学生数	134名
6年生の在籍学生数	125名

	配属講座名	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	配属学生1名当 りの研究室の広さ (㎡)
1	有機薬化学	3	3	6	6	15	7.1
2	医薬品化学	2	4	6	5	15	7.1
3	漢方薬物解析学	2	5	6	5	16	6.6
4	天然物薬品化学	4	7	5	5	17	6.1
5	臨床分析化学	3	7	5	4	16	6.6
6	製剤物理化学	2	5	6	7	18	6.2
7	薬品物理化学	2	5	6	6	17	6.2
8	放射薬品化学	2	5	7	7	19	5.8
9	薬品分析化学	2	5	6	6	17	6.2
10	生体機能解析学	2	5	6	5	16	6.1
11	生化学	2	5	6	5	16	6.9
12	分子微生物学	2	5	7	6	18	5.8
13	衛生化学	2	4	5	5	14	7.9
14	免疫生物学	3	6	6	5	17	6.9
15	薬理学	3	6	7	4	17	6.9
16	薬物動態学	2	4	7	7	18	5.9
17	医療薬剤学	5	7	13	14	34	6.6
18	薬剤設計学	2	6	5	6	17	6.2
19	薬剤情報解析学	3	6	7	7	20	5.9
20	薬物治療学	4	8	12	10	30	7.2
	合計	52	108	134	125	367	

[注] 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
福山キャンパス	講義室	8	1,436	専用	1,260	662	2.17	主として4年生の事前学習で使用するため利用学生総数は4年次生数の108名としている
	演習室	19	842	専用	684	662	2.26	
	基礎系実習室	13	2,233	専用	480	662	3.37	
	学生自習室	7	652	専用	262	662	0.98	
	コンピュータ室	4	718	専用	244	662	1.08	
	総合演習室	1	169	専用	72	108	1.56	
	医療薬学演習室	2	338	専用	144	108	3.13	
	医薬品情報室	1	169	専用	38	108	1.56	
	TDM室	1	169	専用	36	108	1.56	
	OSCE演習室	6	147	専用	72	108	1.36	
	模擬病室	6	147	専用	60	108	1.36	
	調剤実習室	2	338	専用	53	108	3.13	
	製剤実習室	1	169	専用	30	108	1.56	
	クリーンルーム	2	338	専用	50	108	3.13	

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
付属図書館本館	477	3,320	14.4	なし			学部生 3317人 院生 60人 聴講生/研究生等 42人
付属図書館分館	176	3,320	5.3	なし			利用対象学生は 本館と同じ
計	653	3,320	19.7				閲覧室座席数に グループ学習 室・セミナー室 は含めた。

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成23年度	平成22年度	平成21年度	
付属図書館本館	291,881	87,978	2,076	1,626	3,087	0	2,967	3,870	3,914	
付属図書館分館	40,624	40,624	353	365	317	0	558	734	1,193	
計	332,505	128,602	2,429	1,991	3,404	0	3,525	4,604	5,107	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	医薬品化学
職名	教授	氏名	日比野 俐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
学生への対応		従来から	講義において、わかりやすい解説を心がけ、また学生には復習の必要性を説いている。
講義後への対応		従来から	講義の後、理解しにくいところがあれば教員室を尋ねるように話しており、常時対応している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
CBT対策と演習「医薬品化学」・薬学教育研究会編 (参考書)		平成21年2月20日	CBTに対応できる最低限の基礎学力の養成を目指した問題集(159頁~186頁)
NEW医薬品化学 [増補版] (廣川書店) (教科書、初版:平成20年2月10日)		平成23年2月10日	薬学教育モデル・コアカリキュラム「C6及びC7」についての教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD研修(本学主催)		平成23年11月	本学カウンセラーによる問題解決型のFD研修会参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Novel synthesis of 2-azaanthraquinone alkaloid, Scorpionone, based on two microwave-assisted pericyclic reactions	共著	平成20年4月	Tetrahedron Letters(vol.49(23))
A new synthesis of the benzo[c]phenanthridines noritidine, noravicine, and isodecarine, based on a microwave-assisted electrocyclic reaction of the aza 6 π -electron system	共著	平成21年3月	Tetrahedron Letters, (vol.50(5))
A novel total synthesis of the bioactive poly-substituted carbazole alkaloid carbazomadrin A	共著	平成22年6月	Tetrahedron Letters, (vol.51(27))
Synthetic studies on nitrogen-containing fused-heterocyclic compounds based on thermal electrocyclic reaction of 6 π -electron and aza 6 π -electron system	共著	平成23年6月	Heterocycles, (vol.83(5))
A novel total synthesis of isocryptolepine based on a microwave assisted tandem Curtius rearrangement and aza-electrocyclic reaction	共著	平成24年5月	Tetrahedron, (vol.68(22))
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年5月~平成21年5月	有限責任中間法人・薬学教育協議会社員		
平成20年11月	第38回複素環化学討論会実行委員長(於:福山市)		
平成20年12月~平成22年11月	(独)日本学術振興会・科学研究費委員会専門委員(2年間)		
平成21年4月~平成22年3月	(財)大学基準協会・大学評価委員会薬学系第3専門評価分科会主査		
平成22年6月~平成24年3月	(独)科学技術振興機構・研究成果最適展開支援事業専門委員		
平成24年4月~平成26年3月	(独)科学技術振興機構・研究成果最適展開支援プログラム専門委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬理学
職名	教授	氏名	塩見 浩人
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		パワーポイントを用い、できるだけアニメーションを施した図を取り入れ、生体内での生理現象、薬物効果(例えば自律神経の優位性の実際と伝達物質遮断薬の効果)を動きとしてとらえることを重視。到達度チェックを実施。講義前に、再診の医療トピックスの紹介。学生評価への対応の説明。
2	作成した教科書、教材、参考書		教科書は使わずレジュメ・資料を作成して配布。「新入生にすすめる50冊の本」刊行委員会に参加して編集、新入生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		本学の5年次の長期実務実習プログラムにおいて実習学生の実習充実・共有化をはかるため、地域学生を集めてセミナーを実施している。特に、「ふるさと実習」においては、各地域において活動している本学出身薬剤師の参加して実習生をサポートするシステムを構築すべく試みている。(沖縄・島根・長崎では実績を作ることが出来たと考えている)
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
	ファーマコセラピー 一病態生理からのアプローチ	共著	平成19年7月
	Switching over from the entrance phase to maintenance phase in hibernating Syrian Hamsters.	共著	平成20年8月
	ベーシック教科書シリーズ16 薬理学	共著	平成21年4月
	Neuroprotective effects of hibernation-regulating substances against low-temperature-induced cell death in cultured hamster hippocampal neurons.	共著	平成19年
	Regulatory mechanism of body temperature in the central nervous system during the maintenance phase of hibernation in Syrian hamsters: Involvement of β -endorphine.	共著	平成23年3月
	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
	ブレイン出版 上巻		
	Hypometablism in Animals - Hybernation, torpor and cryobiology edited by B.G.Lovegrove & A.E.Mckechnie		
	化学同人		
	Brain Research, (1108)		
	Brain Reseach, (1448)		
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～平成22年12月	日本薬理学会学術評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	応用薬理学
職名	教授	氏名	西尾 廣昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業評価において問題となっていた（授業評価；聞き取り易さ）の改善。 学内および学外において、学生と対面した場合に気軽に会釈を交わせるような、より親しみのある雰囲気を保つ。 1年次生に対する授業においてSGD取り入れた演習方式を取り入れた。 新たな情報機器としてScanSnapおよびiPadを用いた講義を取り入れる試みを行った。 6年次生に対する授業において、演習実習項目を取り入れた。	平成20年～平成24年 平成20年～平成24年 平成20年4月 平成22年9月 平成23年4月	講義内容の整理統合を行った。さらに視覚資料などを活用することにより理解度の向上を図った。 学内および学外において、学生と対面した場合に気軽に会釈を交わせるような、より親しみのある雰囲気を保つことができた。 「人体の構造と機能II」（1年次生）においてSGDを取り入れ、学生が自ら学ぶ体制を構築した。 「ICT教育の現状と今後の展望」において提供された情報をもとに、新たな情報機器としてScanSnapおよびiPadを用いた講義を取り入れる試みを行った。 ファーマシューテカルケアプログラム（6年次生）において、フィジカルアセスメントおよび救急救命／応急手当演習実習を取り入れた授業を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ベーシック薬学教科書シリーズ 16 薬理学（化学同人）	平成22年9月20日	「血液および造血系作用薬」、「診断薬および検査薬」、「抗痙攣薬」	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 1-教育内容・方法の工夫③の成果について、FDを通して学内教員に授業公開を行った。	平成23年6月		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）			
ファーマコセラピー 病態生理からのアプローチ（上巻）	共著	平成19年8月	ブレーン出版
（論文）			
妊娠期騒音ストレスと新生児ラットの生後発育—新生児ラットの精神神経行動および学習行動に対する性依存性影響—	共著	平成18年	日本予防医学会雑誌（第1巻1号）
Effects of (Z)-3-hexenol, a major component of green odor, on anxiety-related behavior of the mouse in an elevated plus-maze test and biogenic amines and their metabolites in the brain.	共著	平成18年	Behavioral Brain Research (vol.166(2))
Expression of mRNA for 5-HT ₂ Receptors and Proteins Related to Inactivation of 5-HT in Mouse Osteoblasts.	共著	平成21年	Journal of Pharmacological Sciences (vol.109(2))
Functional expression of 5-HT _{2A} receptor in osteoblastic MC3T3-E1 cells.	共著	平成22年	Biochemical and Biophysical Research Communications (vol.396(2))
III 学会等および社会における主な活動			
昭和53年3月～平成24年12月	日本薬理学会 評議員		
平成6年10月～平成24年12月	日本神経化学会 評議員		
平成22年4月～平成24年12月	日本薬学会薬理系部会常任世話人		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	天然物薬品化学
職名	教授	氏名	澁谷 博孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～ 平成24年8月	・スライド、PowerPointを活用している。 ・教材については、教科書以外に講義内容を纏めた保存用のプリントを配布している。 ・毎年度、授業評価の結果に従い教育内容・方法を改善している。
2	作成した教科書、教材、参考書 該当なし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年3月	福山大学リレー講座：「くすりの種を求めて」
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Artemisioside, a new monoterpene glucoside from the aerial parts of <i>Artemisia ordosica</i>	共著	平成22年4月	Jornal of Natural Medicines (vol.64(2))
Composition of endophytic fungi living in <i>Cinchona ledgeriana</i> (Rubiaceae)	共著	平成22年4月	Jornal of Natural Medicines (vol.64(2))
Microbial conversion of curcumin into colorless hydroderivatives by the endophytic fungus <i>Diaporthe</i> sp. associated with <i>Curcuma longa</i>	共著	平成23年8月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (vol.59(8))
<i>Cinchona</i> alkaloids are also produced by an endophytic filamentous fungus living in <i>Cinchona</i> plant	共著	平成23年8月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (vol.59(8))
Bioproduction of <i>Cinchona</i> alkaloids by the endophyte fungus <i>Diaporthe</i> sp. associated with <i>Cinchona ledgeriana</i>	共著	平成24年10月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (vol.60(10))
III 学会等および社会における主な活動			
平成5年4月～現在	日本生薬学会評議員		
平成18年4月～平成21年3月	日本薬学会 「Chemical & Pharmaceutical Bulletin」 編集委員		
平成17年4月～現在	「Journal of Natural Medicines」 編集委員		
平成5年4月～現在	日本生薬学会 「生薬学雑誌」 編集委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績			
教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬物動態学
職名	教授	氏名	金尾 義治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 問題演習を積極的に取り入れる 中間試験を行う 理解の十分でない学生に対してレポートを提出させる。	 適時 適時 休暇期間中	授業は出来るだけわかり易く、丁寧に行っている。 授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 積極的に質問を受け付け、考察を深めるよう指導している。 中間試験の成績などを参考に理解の十分でない学生を対象に補講を行っている。 定期試験だけでなく、課題・レポートを通じて授業の効果を上げている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 生物薬剤学パワーブック (廣川書店) 生物薬剤学パワーノート		生物薬剤学に関する教科書を作成し、講義に活用している。 上記教科書の理解を深めるために、解説・参考書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 福山市薬剤師会シリーズ研修会 第23回日本アレルギー学会春季臨床大会 2011 International Conference of the Korean Society of Pharmaceutical Sciences and Technology 情報機講演会 福山市薬剤師会シリーズ研修会 日本薬学図書館協議会研究集会 (学内) 実験動物倫理部会長 (学内) 図書分館長 日本私立薬科大学協会薬剤学教科検討委員	平成23年4月5日 平成23年5月14日 ~平成23年5月15日 平成23年11月10日 平成23年12月8日 平成24年4月3日 平成24年8月23日	「医薬品の適正使用・薬物動態学のススメ」(全3回) 招待講演「DDS製剤の製剤学的・動態学的特性」 招待講演「Polymeric Drugs as Potential Therapeutic System」 「やさしい薬物動態学 超入門」 「医薬品の適正使用に役立つ薬物動態学の知識」(全3回) 招待講演「DDS(ドラッグ・デリバリー・システム)・くすりの進歩」	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)			
難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開	共著	平成22年	シーエムシー
進歩する薬物治療 DDS最前線 第2版	共著	平成22年	廣川書店
NEWパワーブック生物薬剤学 第2版	共著	平成23年	廣川書店
新薬剤学 改訂第3版	共著	平成23年	南江堂
NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学 第2版	共著	平成24年	廣川書店

(論文)			
Synthesis of poly(vinyl alcohol)-doxorubicin conjugates containing cis-aconityl acid-cleavable bond and its isomer dependent doxorubicin release	共著	平成20年	Biol.Pharm.Bull. (vol.31(1))
Synthesis and evaluation of water-soluble poly(vinyl alcohol)-paclitaxel conjugate as a macromolecular prodrug	共著	平成20年	Biol.Pharm.Bull. (vol.31(5))
クラスターデキストリンの体内動態研究—生分解性高分子担体としての利用性— (Biodisposition of Cluster Dextrin as a Biodegradable Drug Carrier)	共著	平成20年	薬剤学 (J. Pharm. Sci. Technol., Jpn.) (vol.69(5))
Preparation and properties of acid-cleavable poly(vinyl alcohol)-cis-aconityl-antitumor anthracycline conjugates	共著	平成24年	J. Drug Deliv. Sci. Technol., accepted (2012)
Hydrophobized poly(vinyl alcohol) for encapsulation of amphotericin B in nanoparticles	共著	平成24年	J. Drug Deliv. Sci. Technol., accepted (2012)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成12年5月～	日本DDS学会評議員		
平成13年1月～	日本薬物動態学会評議員		
平成13年3月～	日本薬剤学会評議員		
平成15年8月～平成21年4月	厚生労働省薬剤師試験委員		
平成21年11月～	医道審議会・薬剤師国家試験出題基準改訂部会委員		
平成24年5月～	武田薬品(財)尚志社評議員		

大学名 福山大学	講座名 医療薬剤学	職名 教授	氏名 吉富 博則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
PBL教育の導入	平成20年～	4年次「薬物動態解析Ⅱ」と「臨床検査」において統合型チュートリアル教育導入	
	平成21年～	4年次事前学習	
	平成23年4月～	6年次「ファーマシューティカルケア総合学習」においてチュートリアル教育導入	
授業評価	平成18年～	2003年以前は独自に、その後は本学自己評価委員会が作成した書式により統一した授業評価を行い、学生の要望に対処している。	
小試験	毎回の講義時	講義終了時に内容関連事項、もしくはニュース等の最新話題を出題し、解説している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
4年次「事前学習」	平成21年9月	4年次「事前学習」の担当部分の方略を作成	
平成22年度「病院・薬局実務実習報告書」	平成23年12月		
平成23年度「病院・薬局実務実習報告書」	平成24年9月		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
第3回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、指導薬剤師養成WS	平成19年2月11日、12日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）	
日本薬学会第127年会	平成19年3月29日	実務実習モデルコアカリキュラムの注射薬調剤の取り組み（第2報）	
第4回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 広島、指導薬剤師養成WS	平成19年4月29日、30日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）	
中国四国地区国立病院薬剤業務研修会	平成19年6月2日	薬学6年制に向けての実務実習について	
第7回南大阪薬剤師業務研究会	平成19年6月21日	長期実務実習モデル・コアカリキュラム方略案を実現するための問題点	
第5回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 徳島、指導薬剤師養成WS	平成19年7月28日、29日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）	
第6回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 山陰、指導薬剤師養成WS	平成19年8月18日、19日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）	
第2回福山大学FD合宿研修WS	平成19年9月4日、5日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）	
第7回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、指導薬剤師養成WS	平成19年9月18日、19日	カリキュラムの立案（ディレクター&チーフタスクフォース・講演）	
第17回日本医療薬学会年会	平成19年9月29日	実務実習モデル・コアカリキュラム「注射薬調剤の取り組み」～評価を中心に～	
第8回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 香川、指導薬剤師養成WS	平成19年9月18日、19日	カリキュラムの立案（ディレクター&チーフタスクフォース・講演）	
日本薬学会薬学教育部会 教育フォーラム2007	平成19年12月20日	実務実習事前学習のあるべき姿	
第9回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、指導薬剤師養成WS	平成20年2月10日、11日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）	
第3回福山大学FD合宿研修WS	平成20年3月6日、7日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）	
日本薬学会第128年会	平成20年3月26日	実務実習モデル・コアカリキュラム 2.5ヵ月実習への取り組み	
第10回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 広島、指導薬剤師養成WS	平成20年5月3日、4日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）	
第12回鳥取県医療薬学フォーラム	平成20年5月17日	薬学6年制での実務実習に向かって～実習での評価のあり方と大学との連携～	
大学模擬授業（広島県立誠之館高等学校）	平成20年5月22日	薬剤師教育6年制	
第11回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 高知、指導薬剤師養成WS	平成20年6月21日、22日	カリキュラムの立案（ディレクター&チーフタスクフォース・講演）	
第24回 東海医療薬学シンポジウム	平成20年6月28日	病院実務実習モデル・コアカリキュラムの取り組み方	

広島県実習受け入れ実行委員会支部担当者養成WS in 広島	平成20年7月21日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第13回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 愛媛、指導薬剤師養成WS	平成20年8月9日、10日	カリキュラムの立案（ディレクター&チーフタスクフォース・講演）
島根県 松江東高校 出張講義	平成20年8月20日	薬学6年制と薬剤師の仕事
平成20年度 文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ	平成20年8月26日	タスクフォース
広島県実習受け入れ実行委員会支部担当者養成WS in 福山	平成20年8月31日	タスクフォース
第14回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、指導薬剤師養成WS	平成20年9月14日、15日	カリキュラムの立案（ディレクター&チーフタスクフォース）
第15回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 広島、指導薬剤師養成WS	平成20年10月12日、13日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース）
第47回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会	平成20年11月8日	実務実習モデル・コアカリキュラムの取り組み第5報～実習手順書・ドリルの他施設共同試用～
第16回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 香川、指導薬剤師養成WS	平成20年11月23日、24日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
広島県 如水館高校 出張講義	平成20年11月26日	薬剤師はなにのをしているのか
第17回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、指導薬剤師養成WS	平成21年2月7日、8日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
広島県実習受け入れ実行委員会支部担当者養成WS in 福山、指導薬剤師養成WS	平成21年3月22日	タスクフォース
第18回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 広島、指導薬剤師養成WS	平成21年5月3日、4日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
第19回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、指導薬剤師養成WS	平成21年6月20日、21日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
島根県病院薬剤師会講習会	平成21年7月4日	実施困難な到達目標への対応
第20回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 愛媛、指導薬剤師養成WS	平成21年7月19日、20日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
第22回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 山陰、指導薬剤師養成WS	平成21年8月8日、9日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
平成21年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ（西日本）	平成21年8月25日	タスクフォース
平成21年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ（東日本）	平成21年8月28日	タスクフォース
第23回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、指導薬剤師養成WS	平成21年9月12日、13日	カリキュラムの立案（ディレクター&チーフタスクフォース・講演）
第24回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、指導薬剤師養成WS	平成21年10月11日、12日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
平成21年度第1回OSCE直前評価者講習会	平成21年10月18日	OSCE評価法と注意点
薬局実務実習11週間スケジュール作成ワークショップ	平成21年11月1日	講演
平成21年度第2回OSCE直前評価者講習会	平成21年11月15日	OSCE評価法と注意点
第25回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 香川、指導薬剤師養成WS	平成21年11月22日、23日	カリキュラムの立案（ディレクター&タスクフォース・講演）
平成21年度第1回病院・薬局実務実習説明会	平成22年1月12日	長期実務実習の問題点と解決法
薬学教育協議会フォーラム2010～伝えよう事前学習の成果、広げよう連携の輪～	平成22年2月7日	タスクフォース
平成21年度第2回病院・薬局実務実習説明会	平成22年2月13日	長期実務実習の問題点と解決法
島根県病院薬剤師会・薬剤師会研修会	平成22年2月14日	長期実務実習の実践
第14回鳥取県医療薬学フォーラム	平成22年5月15日	6年制薬学教育の目指すもの
第18回クリニカルファーマシーシンポジウム	平成22年7月10日	[広島県東部（福山地区）で実務実習を考える会]設立とその有用性～長期実務実習における地域病院と大学教員との連携～
第28回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、指導薬剤師養成WS	平成22年7月18日、19日	タスクフォース
平成22年度 福山大学公開講座	平成22年10月2日、20日	薬剤師教育改革の目指すもの
平成22年度第1回OSCE直前評価者講習会	平成22年10月31日	OSCE評価法と注意点

第31回広島県薬剤師会学術大会	平成22年11月21日	6年制薬学教育での長期実務実習の評価～初めて実施した広島県内の病院・薬局実習に対する学生の評価～
平成22年度第2回OSCE直前評価者講習会	平成22年11月28日	OSCE評価法と注意点
兵庫医療大学薬学部OSCE特別モニター員	平成22年12月26日	OSCE実施状況の評価
薬学教育評価機構 第2回評価者研修会	平成23年1月7日	薬学教育評価機構による第三者評価のあり方
フォーラム2011 初年度実務実習の成果と課題	平成23年2月12日	タスクフォース
日本薬学会130年会 シンポジウム	平成23年3月30日	実務実習モデル・コアカリキュラムに関する学生の声
広島県薬剤師会フォローアップ研修会	平成23年5月29日	タスクフォース
第32回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、薬学教育者WS	平成23年7月17日、18日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
広島県薬剤師会フォローアップ研修会	平成23年8月28日	タスクフォース
第59回薬剤師のためのWS in 近畿	平成23年11月12,13日	シニアタスクフォースとしてWSを評価
第6回島根薬剤師学術大会	平成23年11月20日	6年制薬学教育で育った薬剤師に期待するもの
日本薬学会131年会 シンポジウム	平成24年3月31日	実務実習モデル・コアカリキュラムに関する学生の声
平成24年度薬学共用試験OSCEに向けてWS	平成24年5月18日	タスクフォース
第36回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、薬学教育者WS	平成24年7月15日、16日	タスクフォース
広島県薬剤師会フォローアップ研修会	平成24年9月23日	特別講演&タスクフォース
広島県 福山市立福山高校 出張講義	平成24年10月31日	6年制薬学教育
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
第7回日本薬学会薬学教育改革大学人会議アドバンストWS「実務実習における総括的評価のあり方に関するWS」	平成19年3月11日	タスクフォース
第9回日本薬学会薬学教育改革大学人会議アドバンストWS「実務実習の学習効果を高めるために大学教員と指導薬剤師はどの様に関わることができるか」	平成20年10月5日	実行委員長&タスクフォース
第11回日本薬学会薬学教育改革大学人会議アドバンストWS「これからの実務実習指導薬剤師養成WSのあり方について」	平成21年1月24日	タスクフォース
第13回日本薬学会薬学教育改革大学人会議アドバンストWS「第Ⅰ期実務実習の形成的評価～初めての長期実務実習に対するフィードバック」	平成22年8月22日	タスクフォース
日本薬学会薬学教育部会主催 第3回医薬合同教育ワークショップ（参加）	平成22年8月22日	「薬学教育者のためのワークショップのあり方について」討議

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）大学・ドラッグストア連携を活用した備後地域における健康食品・一般用医薬品利用実態に関する調査研究	共著	平成21年7月	医療薬学（vol.35）
（論文）福山市における大学・高齢者及び保育施設連携を活用した一般用医薬品・健康食品利用実態に関する調査研究	共著	平成22年8月	Yakugaku Zasshi（vol.130）
（論文）Placental growth factor-2 gene transfer by electroporation restores diabetic sensory neuropathy in mice	共著	平成23年1月	Exp Neurol（vol.227）
（論文）学校薬剤師を介した小・中・高校生の一般用医薬品・健康食品の実態調査	共著	平成23年5月	Yakugaku Zasshi（vol.131）
（論文）福山市における地域住民と地域薬剤師のセルフメディケーション向上に関するニーズ調査	共著	平成23年7月	Yakugaku Zasshi（vol.131）
（著書）ファーマシューティカルコミュニケーション	共著	平成19年4月	南山堂
III 学会等および社会における主な活動			
平成9年4月～平成23年3月	社団法人福山市薬剤師会理事		
平成9年4月～現在にいたる	福山医療センター治験審査委員会委員		
平成10年4月～平成23年3月	広島県薬剤師研修協議会委員		
平成14年4月～平成22年3月	病院・薬局実習中国・四国地区調整機構委員長		
平成15年5月～現在にいたる	ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事		
平成17年2月～現在にいたる	薬学教育協議会実務実習推進委員会委員		
平成17年4月～現在にいたる	薬学共用試験センター OSCE実施委員会委員		
平成17年4月～平成21年3月	日本薬学会薬学教育改革大学人会議 CBT問題精選委員		
平成19年5月～現在にいたる	薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ小委員会委員		
平成20年7月～平成22年3月	薬学教育協議会 病院薬局実務実習中央調整機構委員		
平成21年4月～平成24年3月	文部科学省 大学設置・学校法人審議会専門委員		
平成21年4月～平成24年3月	日本薬学会 薬学雑誌編集委員		
平成21年11月～平成24年3月	薬学教育評価機構 評価委員会委員		
平成21年6月～平成23年6月	厚生労働省 医道審議会専門委員（薬剤師分科会）		
平成22年5月～平成23年3月	薬学教育改革大学人会議 薬学教育における実務実習のあり方委員会委員		
平成22年6月～9月	文部科学省 薬学教育者のためのワークショップ委員		
平成22年6月～平成23年3月	薬学教育協議会 実務実習モデル・コアカリキュラムの充実化に向けた調査委員会委員		
平成22年6月～平成23年3月	薬学教育協議会 実務実習における大学と施設および事前学習の充実化に関する調査研究委員会委員		
平成22年10月～平成23年3月	薬学教育協議会 参加型実務実習の充実化に向けた薬学共用試験のあり方に関する調査研究委員会委員		
平成23年4月～平成24年3月	薬学教育評価機構 トライアル評価実施委員		
平成23年8月～2013年3月	文部科学省 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会		
平成24年2月～2014年3月	薬学教育協議会 薬学教育者ワークショップ委員会委員		
平成23年9月～平成24年3月	平成23年度 文部科学省 専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業ペーパーレフリー		
平成24年4月～平成26年3月	福山市民病院臨床研修管理委員会委員		
平成24年6月～平成25年3月	平成24年度 文部科学省 専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業ペーパーレフリー		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	分子微生物学
職名	教授	氏名	福長 将仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 微生物学「小さな生き物たち」、「感染症にかかる」、「病原微生物とたたかう」			この3科目は2年後期から1.5年間継続して実施、基本的には南江堂の「微生物学」を教科書として用いるが学生の能動的学習を醸成するためにSGDも取り入れた授業形態をとる まず微生物の歴史から近年の感染症最新研究までを細菌学会の提供する教育映像集あるいは感染症研究所NIHやWHOで紹介している話題と映像資料もとりあげて授業を行う。 ついで学生4~6名のグループごとにテーマを与えSGDにより適切な答えを検討させ、結果をすべての学生に報告、討論を経て結論に導く、学生は全員が討論内容とそれに対する意見を記載してレポートとして提出、自ら学ぶ態度を身につけることを目的とする。
2 作成した教科書、教材、参考書 科目「小さな生き物たち」SGDテーマと授業教材 科目「感染症にかかる」授業教材		毎年9月までに改定作成 毎年3月までに改定作成	微生物と感染症の歴史資料や話題の感染症記事などを収集して改訂 感染症と病原体の映像資料を追加改訂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 福山大学FD合宿研修ワークショップ		平成20年8月20~21日	タスクフォースとして教育スキル向上を目的とするFD研修WSの運営
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
著書：化学療法学		共著	平成24年2月
著書：微生物学第6版		共著	平成23年8月
著書：生物系薬学一演習編		共著	平成23年6月
著書：医科細菌学第4版		共著	平成22年2月
論文：ボレリアと宿主、媒介動物のインターフェイスにおける発現調節		共著	平成22年9月
発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称			
			南江堂
			南江堂
			東京化学同人
			南江堂
			日本細菌学雑誌 (65巻3号)
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年1月~現在	日本細菌学会理事		
平成22年~現在	雑誌副編集委員 Associate Editor: Microbiology and Immunology, John Wiley & Sons, Pub. Inc.		
平成22年~現在	雑誌編集委員 Editorial Board member: Ticks and Tick-Borne Diseases, Elsevier, B. V.		
平成21年9月	日本薬学会主催第21回微生物シンポジウム実行委員長		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	臨床分析化学
職名	教授	氏名	鶴田 泰人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年～	現在実施しているプリント利用、毎時間の確認テスト、演習問題、一部講義でのスモールグループディスカッションは継続して実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年～	分析化学系の容量分析法に関する実習書を作成した。	
実習書Ⅰ	平成20年～	分析化学系の高速度液体クロマトグラフィー、紫外可視吸光度測定法に関する実習書を作成した。	
実習書Ⅱ	平成20年～	機器分析の教科書として編集、著作した。	
「薬学領域の機器分析学」(廣川書店)	平成21年3月	分析化学系の教科書として編集、著作した。	
「薬学領域の分析化学」(廣川書店)	平成21年4月	分析化学系の問題集として編集、著作した。	
「演習で理解する薬学の分析化学」(廣川書店)	平成22年3月		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬学分析科学の最前線	共著	平成21年3月	じほう
(著書) アミノ酸・生体アミン分析	共著	平成24年6月	丸善出版
(論文) Determination of N-Ethylglycine in urine of cancer patients with metastatic bone disease by HPLC using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent	共著	平成20年12月	Anal. Sci. (vol.24)
(論文) Sensitive determination of carnosine in urine by high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent	共著	平成22年2月	J. Chromatogr. (vol.878)
(論文) A simple and highly sensitive HPLC method with fluorescent detection for determination of pipecolic acid in mouse brain	共著	平成23年2月	Biol. Pharm. Bull. (vol.34(2))
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年3月～平成21年2月	日本薬学会代議員		
平成21年4月～平成24年3月	日本分析化学会中国四国支部幹事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 臨床系	職名 教授	氏名 宇野 勝次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年9月1日～ 平成20年4月1日～	授業毎に講義資料、CBT問題、確認問題を準備 学生には好評であったが、一部見づらい図有り 講義プリントの見難い図を順次改善	
2 作成した教科書、教材、参考書 知っておきたい臨床検査値 (東京化学同人) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2008 (南山堂) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2009 (南山堂) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2010 (南山堂) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2011 (南山堂) 微生物学改訂第6版 (南江堂) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2012 (南山堂)	平成19年12月12日 平成20年3月24日 平成21年3月24日 平成22年3月24日 平成23年3月24日 平成23年8月20日 平成24年3月24日		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成19年10月10日 平成20年2月21日	薬剤師の価値論、薬事新報 薬剤師の価値論-続編、薬事新報	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年5月25日 平成21年5月25日 平成21年9月1日～ 平成22年4月1日～ 平成22年4月1日～	「質の高い大学教育推進プログラム」申請 「大学教育推進プログラム(テーマA)」申請 6年制実務実習事前学習担当 6年制実務実習の責任者 6年制実務実習後学習の責任者	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) アレルギー起因薬の検出	単著	平成23年11月	科学評論社、臨床免疫・アレルギー科(56巻5号)
(著書) 薬剤アレルギー起因薬検出における白血球遊走試験の臨床的有用性の検討	共著	平成23年12月	北隆館、アレルギーの臨床(31巻5号)
(著書) アレルギー起因薬の検出	単著	平成24年5月	金原出版、小児科(53巻5号)
(論文) Liver injury induced by a Japanese herbal medicine, sairei-to (TJ-114, Bupleurum and Hoelen combination, Chai-Ling-Tang)	共著	平成19年5月	Journal of Gastroenterology and Hepatology (vol.22(5))
(論文) アレルギー性薬疹における掻痒感の検討	共著	平成19年5月	日本医療薬学会(33巻5号)
(論文) Clinical application of the leukocyte migration test and new diagnostic criteria for identifying causative agents in patients with drug-induced liver injury	共著	平成19年9月	Hepato-gastroenterology (vol.54(78))
(論文) Comparative study of the usefulness of the drug-induced lymphocyte stimulation test and the leukocyte migration test in drug allergies	共著	平成20年2月	Biological & Pharmaceutical Bulletin (vol.31(2))
(論文) 保険薬局におけるドラッグセイフティマネジメントのスコア化の評価	共著	平成21年1月	日本薬局学会誌(1巻1号)

(論文) 薬剤アレルギー起因薬検出における白血球遊走試験(ケモタキニス・チャンバー法)の臨床的有用性の検討	共著	平成21年2月	日本医療薬学会(35巻2号)
(論文) 医薬品過敏症の臨床解析	単著	平成22年2月	日本医薬品情報学会(2巻1号)
(論文) 薬剤アレルギーの起因薬検出、臨床解析および発現機構に関する研究	単著	平成22年9月	日本医療薬学会(36巻9号)
(論文) A study of elevated interleukin-8 (CXCL8) and detection of leukocyte migration inhibitory activity in patients allergic to beta-lactam antibiotics	共著	平成23年12月	Allergology International (vol.60(4))
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成3年6月～現在	日本化学療法学会評議員		
平成18年10月～現在	日本アレルギー学会代議員		
平成19年4月～現在	新潟アレルギー研究会顧問		
平成20年4月～現在	新潟副作用研究会顧問		
平成20年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構広島県実習調整委員		
平成22年4月～現在	広島県病院薬剤師会幹事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	有機薬化学
職名	教授	氏名	藤岡 晴人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 パワーポイントを活用して毎回復習に努めたところ、学生から評価が得られた。		平成24年9月20日	
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントの資料			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）なし			
A New Synthetic Route to the 1-Oxygenated Carbazole Alkaloids, Mukonine and Clausine E (Clausoline I)	共著	平成21年	Heterocycles (vol.79)
Dibridged Bis(Zn ²⁺ -cyclen): A Novel Host Molecule of Malonate Dianion in Aqueous Solution	共著	平成22年	Bull. Chem. Soc. Jpn. (vol.83)
Timolol Activates the Enzyme Activities of Human Carbonic Anhydrase I and II	共著	平成22年	Biol. Pharm. Bull. (vol.33)
福山大学薬学部における幼児・高齢者との交流学習への取り組みー学生のコミュニケーションおよびホスピタリティ能力を培うためにー	共著	平成22年	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. (vol.36(7))
A novel total synthesis of the bioactive poly-substituted carbazole alkaloid carbazomadurin A	共著	平成22年	Tetrahedron (vol.68(22))
Improved synthesis of the new furo[3,2- <i>h</i>]isoquinoline alkaloids TMC-120B and TMC-120A, and their inhibitory activities against IFN-gamma and IL-4 production	共著	平成24年	Heterocycles (vol.84)
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年4月～平成24年現在	日本薬学会ファルマシア地区通信員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	生化学
職名	教授	氏名	森田 哲生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
平成23年度授業評価		平成23年7月	2年次開講科目「生命活動を担うタンパク質」において授業評価を実施し、アンケート結果についての改善点を学生に提示した。
平成24年度授業評価		平成24年7月	2年次開講科目「生命活動を担うタンパク質」において授業評価を実施し、アンケート結果についての改善点を学生に提示した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
生命活動と生化学への展開		平成21年8月	生化学の基礎とその応用について特にその要点を記述した。
代謝・内分泌疾患と薬物治療への展開		平成23年9月	代謝・内分泌疾患の基礎とその薬物治療について、図解を多く取り入れ、図による理解を提示した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
大学主催のFD講演会 (FDを含む)		平成23年	講演会を聴講
大学主催のSGD講習会		平成23年	講習会への開催支援
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) マウス乳癌FM3A細胞に対するL-アルギニンの増殖因子作用	共著	平成22年4月	医学と生物学 (154巻4号)
(論文) Prazosin stimulates the release of hepatic triacylglycerole lipase from primary-culture rat hepatocytes	共著	平成22年8月	J.Health Sci.(vol.56(4))
(論文) Endoyhelin-1 stimulates secretion of lipoprotein lipase from Ehrlich ascites tumor cells	共著	平成22年8月	J.Health Sci.(vol.56(4))
(論文) 転移性乳癌患者におけるエイコサペンタエン酸強化濃厚流動食投与のおよぼす影響	共著	平成23年4月	静脈経腸栄養 (26巻4号)
(論文) マウス乳癌FM3A細胞におけるエンドセリン-1によるDNA合成の促進	共著	平成24年6月	医学と生物学 (156巻6号)
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年4月～現在	日本薬学会評議員		
平成1年4月～現在	千葉大学医学部非常勤講師		

富田

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	製剤物理化学
職名	教授	氏名	富田 久夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎 年	・講義全体のストーリー展開が把握できるように、内容が完結できるような講義計画を立て、また実践的な例を引用して学生のモチベーションを高めるようにした。 ・毎回の講義開始時に5分間程度で前回の講義内容についての確認テストを実施し、講義内容を把握させた。また、定期試験に加えて中間テストを実施した。 ・当該学生はもちろん次年度の学生に対する講義へフィードバックを徹底し、学生の到達度を向上させる努力をした。
1) 教育内容の工夫： 綿密な講義計画と準備 2) 教育方法の工夫： 確認テストの実施、中間テストの実施 3) 学生による授業評価の活用： 評価結果のフィードバックの徹底			
2 作成した教科書、教材、参考書			
「薬学物理化学」(廣川書店)		平成22年9月	
「薬学物理化学演習」(廣川書店)		平成23年9月	
「NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学」(廣川書店)		平成24年3月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Antioxidant properties of some different molecular weight chitosans	共著	平成21年12月	Carbohydrate Research. (vol.344(13))
Polysaccharides as potential antioxidative compounds for extended-release matrix tablets	共著	平成22年1月	Carbohydrate Research. (vol.345(1))
Useful Extend-release Chitosan Tablets with High Antioxidant Activity	共著	平成22年6月	Pharmaceutics (vol.2(2))
The antioxidative and antilipidemic effects of different molecular weight chitosans in metabolic syndrome model rats	共著	平成22年12月	Biological & Pharmaceutical Bulletin (vol.33(12))
Antioxidant properties of high molecular weight dietary chitosan in vitro and in vivo	共著	平成23年1月	Carbohydrate Polymers, (vol.83(2))
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	漢方薬物解析学
職名	教授	氏名	岡村 信幸
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		<p>「漢方薬物Ⅰ」(1年前期)、「漢方薬物Ⅱ」(1年後期)、「薬になる動植物」(2年前期)では、到達目標の明示、小テストと解説、講義プリント配布、双方向授業などを実施し、分かり易い講義を心掛けた。さらに定期試験終了時に見直しができるよう模範解答を配付した。講義スピードが速いと感じる学生が多いので、講義プリントをできるだけ見易く、理解し易いように工夫をし、重要な内容を把握しやすいように心掛けた。ただし、臨床を含めた高学年の範囲も解説する必要があることから、次年度から口頭の補足説明だけでなく講義プリントに脚注を設け、配布する講義プリントの内容を厳選し、もっとテキストとの併用を試みるなどの改善をしたい。「薬学入門Ⅰ」(1年前期)、「薬学入門Ⅱ」(1年後期)では能動的な学習を実践し、SGDや早期体験学習などの体験型学習を実施した。「コミュニケーション」(2年前期)では保育園での交流学习に同伴し、学生と園児のスムーズな交流と園児の安全に気を配った。早期体験学習と交流学习はいずれも発表会を行い、気づきの学習による学生の行動変容を促した。「漢方生薬実習」(2年後期)では、できるだけ興味を持たせ、学生が能動的に取り組むようなプログラムを実践した。授業評価の総ての項目に関する結果をプリントにして配付し説明した。授業評価(満足度)は漢方薬物Ⅱ(4.31)(H23)と薬になる動植物(4.40)(H24)であり、より学習成果が上がるよう工夫したい。</p>
2	作成した教科書、教材、参考書 現代医療における漢方薬(南江堂) 日本生薬学会監修 共著 病態からみた漢方薬物ガイドライン(京都廣川書店) 単著 第2版(2012年1月) 薬学用語辞典(東京化学同人)日本薬学会編 共著	平成20年4月 平成21年3月 平成24年3月	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬剤師のためのWS(中国・四国)in香川、指導薬剤師養成WS 薬剤師のためのWS(中国・四国)in福山、指導薬剤師養成WS 第26回和漢医薬学会学術大会WS(千葉市) 日本生薬学会第57回年会シンポジウム(徳島市)	平成19年11月 平成20年9月 平成21年8月 平成22年9月	カリキュラム立案(タスクフォース・講演) カリキュラム立案(タスクフォース・講演) 「和漢医薬:薬学系の人材育成」のシンポジストとして「薬学部における漢方教育の取り組み」を講演 「生薬学会が取り組む漢方薬学教育」のシンポジストとして「漢方をやさしく理解してもらうための教育手法」を講演

岡村

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
福山大学漢方研究会	毎月	代表世話人：薬学部主催行事
福山漢方談話会	毎月	幹事
第3回福山大学FD合宿研修WS（尾道市）	平成20年3月	カリキュラム立案（タスクフォース・講演）
第4回福山大学・福山平成大学FD合宿研修WS（尾道市）	平成20年8月	カリキュラム立案（タスクフォース・講演）
第5回福山大学・福山平成大学FD研修WS（福山市）	平成21年3月	カリキュラム立案（タスクフォース・講演）
第6回福山大学・福山平成大学FD研修WS（福山市）	平成21年8月	カリキュラム立案（タスクフォース・講演）
第7回福山大学・福山平成大学FD研修WS（福山市）	平成22年3月	カリキュラム立案（タスクフォース・講演）
広島県薬剤師研修協議会（福山市）	平成20年2月	講演
大分県薬剤師研修協議会（大分市）	平成20年7月	講演
Pharmacist Kampo Seminer（奈良市）	平成21年1月	講演
平成20年度実践薬学セミナー（鹿児島市）	平成21年3月	講演
市民公開講座（福山市）	平成21年7月	講演
完全マスターセミナー IN 奈良（奈良市）	平成21年8月	講演
薬剤師のための漢方薬講座（神戸市）	平成22年1月	講演
社会保険神戸中央病院薬剤部・調剤薬局合同説明会（神戸市）	平成22年6月	講演
福山ロータリークラブ（福山市）	平成22年11月	講演
漢方調剤フォーラム in 山口（山口市）	平成23年1月	講演
生涯教育研修会下関市薬剤師会（下関市）	平成23年5月	講演
薬剤師のための和漢医薬学研修会（大分市）	平成23年5月	講演
第14回 瀬戸内海臨床漢方セミナー（倉敷市）	平成24年2月	特別講演
第4回日本中医学会学術総会（大阪市）	平成24年6月	特別講演
広島県立安芸南高等学校（広島市）	平成20年3月	ガイダンス
岡山龍谷高等学校（笠岡市）	平成22年6月	ガイダンス
今治明德高等学校 学部説明会（今治市）	平成22年6月	ガイダンス
岡山県立玉野高等学校（玉野市）	平成22年7月	ガイダンス
広島県立三原東高等学校（三原市）	平成22年7月	ガイダンス
尾道東高等学校（尾道市）	平成22年10月	ガイダンス
山口県立徳山高等学校（周南市）	平成24年3月	ガイダンス
山口県立熊毛南高等学校（山口県熊毛郡）	平成24年3月	ガイダンス

岡村

II 研究活動			
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）現代医療における漢方薬	共著	平成20年4月	南江堂
（著書）病態からみた漢方薬物ガイドライン 第2版	単著	平成24年1月	京都廣川書店
（著書）薬学用語辞典	共著	平成24年3月	東京化学同人
Simultaneous high-performance liquid chromatographic determination of sennoside A metabolites in rat and mouse feces.	共著	平成21年5月	J. Trad. Med.(vol.26)
Effect of goreisan on diarrhea model mouse induced by saline purgative.	共著	平成21年10月	Kampo Med.(vol.61(5))
Sensitive determination of carnosine in urine by high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent.	共著	平成22年2月	J. Chromatogr. B (878)
High-performance liquid chromatographic determination and metabolic study of sennoside A in daiokanzoto by mouse intestinal bacteria.	共著	平成23年9月	Chem. Pharm. Bull. (vol.59(9))
The influence of glycyrrhiza and antibiotics on the purgative action of sennoside A from daiokanzoto in mice.	共著	平成23年9月	Biol. Pharm. Bull.(vol.34(9))
III 学会等および社会における主な活動			
平成7年～	福山大学漢方研究会代表世話人		
平成13年9月～	和漢医薬学会評議員		
平成16年～	福山漢方談話会幹事		
平成16年～	日本生薬学会関西支部委員		
平成22年4月～平成24年3月	広島県薬剤師会理事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
福山大学	生体機能解析学	教授	石津 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年度より	<p>法・制度関連科目において それまでに法律の知識がほとんどない薬学生にとって、3年生から始まる法・制度関連科目はすぐにはなじむことができない、敬遠されがちな科目となっている。。そこで、「まず法律ありきではなく、事象ありき。」という方式を導入することにした。日常、病院や薬局など医療現場で起きている事件、事故(例:麻薬である注射用アンプルをこぼしてしまった。)をまずとりあげ、その解決のための法律を学んでいくことにより薬事関係法規を学ばせるというものである。この方式を採用することにより、学生が、法・制度関連科目を不得意な科目とすることなく、円滑な知識の修得が可能になりその内容についての理解度の飛躍的な向上を図っている。</p>
		平成20年度より	<p>医薬品管理において 「医薬品管理」(4年生前期科目)では、麻薬、覚せい剤、毒物、劇物などいわゆる危ない薬の取り扱いや管理法についての知識を修得することになっている。この科目ではテレビニュースや新聞記事で頻繁に取り上げられる「脱法ハーブによる事故」や、汚染が広がりつつある大麻などの時事問題を講義の中で引用することにより講義内容への興味を引いた上で、そのような問題を引き起こさないための知識、すなわちこの科目で修得すべき知識を学習させるという工夫をすることになっている。</p>
		平成23年4月より	<p>1, 2年生の講義において 授業2回ごとに小テストを行い、学生の理解度を把握し、理解度が低いところは復習するとともに、特に、理解度の低い学生については個人指導を行った。この方法は学生の理解度が飛躍的に向上し、また授業評価の結果もよいことから今後も続けていくことにしている。さらに、オフィスアワーの充実をさせ、質問に来た学生にはできる限り時間をかけて丁寧に説明するようにこころがけている。事実、授業評価における「質問への誠意」という項目は4.51であり、質問に熱心に対応してくれたという評価を得ている。</p>
		平成20年4月～平成24年4月	<p>基礎学力アンケート 入学直後の1年次生を対象として、化学、生物、物理、数学について試験を実施している基礎学力アンケートは高校で学んだ内容の中から、大学の講義を理解する上で、必要な知識について問うものである。また、このアンケートでは同時に高校で履修した科目、得意科目、不得意科目についても調査している。この基礎学力アンケートの結果から学生の基礎学力の水準を把握し、今後の円滑な講義進行のために役立てることにしている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬事関係法規・制度解説第8, 9版 (廣川書店)		平成19, 20年3月	
医薬品管理用資料「危ない薬」		平成19～24年	
官能基と構造解析用資料「NMR、IR、MS」		平成19～24年	
実習Ⅰ・実習Ⅱ (有機化学)		平成19～24年	
第9版ソロモン新有機化学 上下巻スタディガイド (廣川書店) 翻訳協力者		平成20年4月	

石津

NEW医薬品化学（廣川書店）	平成20年2月		
わかりやすい薬事関係法規・制度（廣川書店）	平成21年11月		
CBT対策と演習 医薬品化学（廣川書店）	平成21年10月		
CBT対策と演習 薬事関係法規・制度（廣川書店）	平成21年11月		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
サイエンスラボ実験理科学習における講義と実習を年2回開催する。	平成19年～平成24年	・「かぜ薬をつくってみよう！ ー解熱・鎮痛薬エテンザミドの合成と確認ー」 ・「危ない薬 ～麻薬、覚せい剤から違法ドラッグまで～」	
大学祭(三蔵祭)	平成19年～平成24年	大学祭（三蔵祭）における化学班の指導	
福山市薬剤師会シリーズ研修会	平成19年3月6日、4月13日	講演	
教員免許更新講習	平成21～平成24年		
広島県立神辺高等学校	平成21年12月20日	薬物乱用防止教室	
福山市立高校	平成23年7月13日	薬物乱用防止教室	
福山市立中学校	平成21年11月9日	薬物乱用防止教室	
九州国際大学附属高校	平成21年12月10日	出張講義	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Chemistry and crystal structures of complexes of caffeine and tea catechins	共著	平成24年9月	Royal Society of Chemistry Publishing
（論文）Characterization of Creaming Precipitate of Tea Catechins and Caffeine in Aqueous Solution	共著	平成24年9月	Chemical&Pharmaceutical Bulletin (vol.60(9))
（論文）Configurational Studies of Complexes of Various Tea Catechins and Caffeine in Crystal State	共著	平成23年8月	Chemical&Pharmaceutical Bulletin (vol.59(8))
（論文）Configurational Studies of Complexes of Tea Catechins with Caffeine and Various Cyclodextrins	共著	平成23年3月	Planta Medica (vol.77)
（論文）Stereochemical Structure and Intermolecular Interaction of Complexes of (-)-Galocatechin-3-O-Gallate and Caffeine	共著	平成23年1月	Chemical&Pharmaceutical Bulletin (vol.59(1))
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年4月～平成24年12月	日本化学会代表正会員		
平成18年4月～平成24年12月	日本薬学会代議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬剤情報解析学
職名	教授	氏名	江藤 精二
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年4月～ 平成23年4月～ 平成23年4月～	・担当講義(調剤、患者情報、悪性腫瘍と薬物治療)において、症例提示によるPBLを実施している。 ・Pharmaceutical Care総合演習において「がん薬物治療専門薬剤師の役割と基本的スキル」を担当し、アクティブラーニングの手法で実施している。 ・課題研究は臨床現場との共同研究を通じて、学生の臨時的PBL能力の向上を図っている。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福山市薬剤師会シリーズ研修会 薬剤師のためのWS、指導薬剤師養成WS 北九州勤務薬剤師会学術講演会 福山市薬剤師会シリーズ研修会	平成21年1～3月 平成21年7月～ 平成21年7月 平成24年6～7月	「知っておきたいカルテ情報」 タスクフォース 「薬学部6年制実務実習への大学の取り組み」 「最新の抗がん剤治療」
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
	薬学共用試験OSCE	平成21年4月～	大学委員
	薬学共用試験OSCE	平成21年4月～	実施委員長
	薬剤師国家試験問題検討委員会実務部会	平成24年4月～	委員
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
	(論文) Susceptibility of Antibiotic - Resistant Lactic Acid Bacteria and Clostridium Butyricum Preparations to Fluoroquinolones	共著	平成20年1月 Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (vol.34(1))
	(論文) 抗がん剤調製支援システムの構築	共著	平成20年2月 日本病院薬剤師会雑誌(44巻2号)
	(論文) 産業医科大学病院におけるがん化学療法レジメンの管理体制	共著	平成20年3月 産業医科大学雑誌(30巻1号)
	(論文) 抗がん剤適正使用のための取り組みー投薬歴ファイルを用いた処方監査	共著	平成20年9月 日本病院薬剤師会雑誌(44巻9号)
	(論文) Sensitive determination of carnosine in urine by high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl) -2-methoxyphenylsulfonil chloride as a fluorescent labeling reagent	共著	平成22年1月 J. Chromatogr. B (vol.34(1))
	(論文) 肺障害を指標としたラット過敏反応モデルによる先発および後発バクリタキセル注射液の副作用の比較	共著	平成23年4月 癌と化学療法(38巻、第4号)

江藤

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成15年4月～	北九州地区勤務薬剤師会名誉会員
平成16年4月～	広島東部地区がん化学療法研究会代表幹事
平成16年4月～	中国中央病院IRB外部委員
平成16年4月～	中国中央病院倫理委員会外部委員
平成20年4月～	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構広島県実習調整委員

片山

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬剤設計学
職名	教授	氏名	片山 博和
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		DVDやインターネット等を利用して行う。前回講義の要点を講義前に小テストで問う。できるだけ、講義中に学生に発言させるようにする(学生に質問する)。学生の授業評価は概ね良好であり、特に改善の要望はないが、結果を公表し常に改善する意識は維持している。
2	作成した教科書、教材、参考書 シナリオ症例解析 (京都廣川書店) 最新薬剤学 第10版 (廣川書店)	平成21年9月28日 平成24年4月1日	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 実務実習関係で薬局実習の指導者を集めて開催されたアドバンスワークショップ(広島県薬剤師会主催、福山市) 病院・薬局実務実習中国四国地区調整機構第三者委員	平成24年8月 平成24年5月、10月	タスクフォース 2012年5月に出雲市、10月に高知市で中四国地区の実務実習トラブル事例を報告し、啓蒙活動を行った。
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
	(論文) Mechanisim underlying insulin uptake in alveolar epithelial cell line RLE-6TN		平成23年12月
			Elsevire、European Journal of Pharmacology,672(1-3)
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年4月～平成22年3月	広島県薬剤師会常務理事		
平成20年4月～平成24年3月	広島県薬剤師研修協議会委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	免疫生物学
職名	教授	氏名	赤崎 健司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
①講義の内容関連のトピックス紹介		平成21年4月から	①薬学英語Ⅱで新型インフルエンザに関するWHOの英文情報の翻訳を通じて、疾病の社会的影響を考察させた。生活環境と健康で上水における有害物質発生のニュースを使って、浄水の問題点を考察させた。②講義1コマが終了する前に、その確認テストを行う。次の講義時間に問題の解説をおこない講義内容理解を深めた。③2-②の練習問題を使い、演習をコンピュータを使用して行った結果、薬学共用試験において平成21～23年度受験生全員が一回で合格できた。3. 課題研究の実験を通して講義で得られた知識の理解を深めた。
②確認テストの実施			
③総合薬学演習で練習問題ライブラリーの活用			
④課題研究			
2 作成した教科書、教材、参考書			
①総合薬学演習の練習問題の作成と問題のライブラリーの構築		平成20年4月から	①総合薬学演習は4年次までに修得した内容に関する練習問題とその解説を作成して、コンピュータに登録したライブラリーを構築した。②細胞生物学関連の授業に必要なカラー図表を作成して使用した。その際、過去に発表した論文の図表、写真を使用した。
②カラー講義資料の作成			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬剤師シリーズ研修会		平成23年12月6日、20日	病院薬剤師、薬局薬剤師を対象としたセミナーを2回行った。内容は「モノクローナル抗体の作製の基礎と治療への応用」である。
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
薬系免疫学	共著	平成24年9月	南江堂
予防薬学としての衛生薬学	共著	平成25年3月	廣川書店
(論文) Comparison of receptors and enzymes regulating cholesterol levels in liver between SHR/NDmcr-cp rats and normotensive Wistar Kyoto rats at ten weeks of age.	共著	平成23年7月	Biol. Pharm. Bull. (vol.34(7))
(論文) COOH-Terminal isoleucine of lysosome-associated membrane protein-1 (LAMP-1) is optimal for its efficient targeting to dense secondary lysosomes.	共著	平成22年12月	J. Biochem. (vol.148(6))
(論文) Tissue distribution of mevalonate pyrophosphate decarboxylase in guinea pig	共著	平成21年2月	Biol.Pharm. Bull. (vol.32(2))
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	薬学共用試験センター CBT委員		
平成23年10月～現在	日本生化学会 評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 臨床系	職名 教授	氏名 大濱 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年度	1)体験型学習の充実 2)上記1)を通じた臨床感覚の育成
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年度	講義用自作プリントを準備
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(著書) NST活動のための栄養療法データブック	共著	平成20年10月	中山書店
(著書) 疾患・病態別の栄養管理 理論と実践	共著	平成20年10月	医薬ジャーナル社
(著書) ケースで学ぶ栄養管理の思考プロセス	共著	平成21年 6月	文光堂
(著書) 実践臨床栄養	共著	平成22年 1月	医学書院
(論文) ワンステップアップ臨床栄養	共著	平成22年 5月	医歯薬出版
III 学会等および社会における主な活動			
平成 9年 4月～	日本静脈経腸栄養学会評議員		
平成11年 4月～	日本注射薬臨床情報学会理事		
平成18年 2月～	日本静脈経腸栄養学会理事		
平成19年 4月～	日本在宅医療学会評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬品物理化学
職名	教授	氏名	廣瀬 順造
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 1) 授業内容の工夫 ①授業内容の可視化 ②授業内容の理解促進 2) 授業方法の工夫 ①可視化のためにPowerPoint・アニメーションを用いる。 ②授業内容理解の促進のための確認テスト 3) 学生による授業評価の活用 学生の評価に対しては、授業のなかでその評価に対してフィードバックし、授業内容・方法に改良を加えるようにしている。			授業の一番最初の時間に、授業の概要を述べどの様な目的で授業を行うかを述べるようにした。なるべく授業を可視化しておこなった、一部にはアニメーションによる動きも授業内容に入れた工夫をしている。毎回確認テストを行い採点(A, A', B0, B, C)を行って、毎回学生に返却し、確認テストの解答を説明している。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学領域の機器分析 (廣川書店) 「電子スピン共鳴分析法」230-241頁 「相互作用の解析法」255-264頁		平成21年4月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学役員：RIセンター運営委員長、就職委員会副委員長 学部内役員：就職対策委員			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) The mechanisms by which latanoprost free acid inhibits human carbonic anhydrase I and II.	共著	平成20年5月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, (vol.31(5))
(論文) Timolol activates the enzyme activities of human carbonic anhydrase I and II.	共著	平成22年2月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, (vol.33(2))
(論文) In rat dipeptidyl peptidase III, His568 is essential for catalysis, and Glu507 or Glu512 stabilizes the coordination bond between His455 or His450 and zinc ion.	共著	平成22年10月	Biochimica et Biophysica Acta, Proteins and Proteomics, 1804 (10)
(論文) Metal preferences of zinc-binding motif on metalloproteases.	共著	平成23年10月	Journal of Amino Acids, 574816, 7(2011)
(論文) Flexibility of the coordination geometry around the cupric ions in Cu(II)-rat dipeptidyl peptidase III is important for the expression of enzyme activity.	共著	平成24年6月	Archives of Biochemistry and Biophysics, 525(1)
III 学会等および社会における主な活動			
平成9年～現在	日本生化学会会員 評議委員		
平成9年～現在	日本薬学会「金属の関与する生体関連反応シンポジウム」代議員		
平成21年～平成24年3月	日本薬学会 Biol. Pharm. Bull.・Chem. Pharm. Bull.・薬学雑誌 編集委員		
平成22年4月～平成24年3月	日本薬学会 中四国支部 幹事		

杉原

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	衛生化学
職名	教授	氏名	杉原 成美
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 学習到達度の低い学生に対する補習 視覚資料の活用 講義プリントの配付 授業時間外での質問受付 セミナー(研究室配属学生対象) 授業評価		中間試験の結果を参考に、学習到達度の低い1年生を対象に補習を実施 Power Pointを活用 教科書の補足と授業の理解度を高めるため、授業内容に沿ったプリントを配布 研究室在室時には随時、質問を受付 研究室配属学生を対象に、医療に関するテーマを取り上げ、SGD形式のセミナーを実施 学生の講義評価を受け、結果については授業で学生にフィードバックし、また、参考資料として活用
2	作成した教科書、教材、参考書 メタボリックシンドロームの基礎知識(ふうろ) 予防薬学としての衛生薬学(廣川書店)	平成22年 平成24年	「疾病の予防」で使用している教科書(共著) 2013年から使用予定の衛生化学の教科書(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 女子中高生の理系進路選択支援事業 「輝け 未来の女性Scientist Enjoy Science Lab !!」	平成20~22年度	独立行政法人 科学技術振興機構委託事業 取り纏め責任者
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
	Accidental ingestion of tobacco products by children and awareness by guardians of the hazard potential	共著	平成17年
	Presence or absence of a gallate moiety on catechins affects their cellular transport.	共著	平成18年
	Inhibitory effect of flavonoids on the efflux of N-acetyl 5-aminosalicylic acid intracellularly formed in Caco-2 cells.	共著	平成19年
	The ability of gallate and pyrogallol moieties of catechins to inhibit P-glycoprotein function	共著	平成21年
	Influence of gallate and pyrogallol moieties on the intestinal absorption of(-)-epicatechin and (-)-epicatechin gallate.	共著	平成22年
	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
			Jpn J Pub Health. (vol.55(4))
			J Pharm Pharmacol. (vol.60)
			J Biomed Biotechnol. (2009)
			J Functional Food. (vol.3)
			J. Food Science. (vol.77)
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年10月~現在	ふくやま「健康生き活き」ネットワーク会議(福山市保健所)		
平成16年~現在	健康ふくやま21フェスティバル実行委員(福山市保健所)		
平成19年6月~現在	ふくやま食育ネットワーク会議副会長(福山市保健所)		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬物動態学
職名	教授	氏名	田中 哲郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年6月	授業評価では、スライドの内容が込み入る傾向について指摘があった。スライドの内容を簡潔にし、文字の大きさ等に注意を払う。 CBT形式の問題や薬剤師国家試験に関連した問題からなる小テストを導入し、重点箇所を明確にするように心がける。
2 作成した教科書、教材、参考書			
NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学		平成19年3月20日	
NEWパワーブック生物薬剤学第2版		平成23年2月10日	
NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学第2版		平成24年3月10日	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬学会第131年会(静岡)		平成23年3月31日	長期実務実習のサポート体制と学生の実習評価(2)
日本薬学会第132年会(札幌)		平成24年3月29日	フィジカルアセスメントに関する薬学生および地域薬剤師の意識調査－バイタルサインの取得演習との関連について－
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
		平成24年9月18日	科学研究費補助金説明会参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Synthesis of poly(vinyl alcohol)-doxorubicin conjugates containing cis-aconityl acid-cleavable bond and its isomer dependent doxorubicin release	共著	平成20年1月	Biol.Pharm.Bull.(vol.31(1))
Synthesis and evaluation of water-soluble poly(vinyl alcohol)-paclitaxel conjugate as a macromoleulrarprodrug	共著	平成20年5月	Biol.Pharm.Bull.(vol.31(5))
クラスターデキストリンの体内動態研究－生分解性高分子担体としての利用性－	共著	平成21年5月	薬剤学 (vol.69(5))
福山大学薬学部における幼児・高齢者との交流学習への取り組み－学生のコミュニケーションおよびホスピタリティー能力を培うために－	共著	平成22年7月	医療薬学 (vol.36(7))
Preparation and properties of acid-cleavable poly(vinyl alcohol)-sic-aconityl-antitumor anthracycline conjugate	共著	平成24年8月受理	J Drug Deliv. Sci. Tech.
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月1日～現在	日本薬剤学会評議員		

大橋

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 天然物薬品化学	職名 教授	氏名 大橋 一慶
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～ 平成24年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド、PowerPointを活用している。 ・教材については、教科書以外に講義内容を纏めた保存用のプリントを配布している。 ・毎年度、授業評価の結果に従い教育内容・方法を改善している。 	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年10月	公開講座：「医薬品ではなくすり」	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Bioproduction of bile acids and the glycine conjugate by <i>Penicillium</i> sp.	共著	平成20年1月	Jornal of Natural Medicines (vol. 62(1))
Composition of endophytic fungi living in <i>Cinchona ledgeriana</i> (Rubiaceae)	共著	平成22年4月	Jornal of Natural Medicines (vol. 64(2))
Microbial conversion of curcumin into colorless hydroderivatives by the endophytic fungus <i>Diaporthe</i> sp. associated with <i>Curcuma longa</i>	共著	平成23年8月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (vol.59(8))
Cinchona alkaloids are also produced by an endophytic filamentous fungus living in <i>Cinchona</i> plant	共著	平成23年8月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (vol.59(8))
Bioproduction of Cinchona alkaloids by the endophyte fungus <i>Diaporthe</i> sp. associated with <i>Cinchona ledgeriana</i>	共著	平成24年10月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (vol.60(10))
III 学会等および社会における主な活動			
平成18年7月～平成19年3月	広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ		
平成21年7月～平成22年3月	広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ		
平成23年7月～平成24年3月	広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ		
平成23年4月～現在	日本薬学会中国四国支部幹事		

井上あ

基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

大学名 福山大学	講座名 薬物治療	職名 教授	氏名 井上 敦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2 作成した教科書、教材、参考書 プリント、PC		講義は、内容に沿った図表中心のプリントを作成して行い、その図表をPCで投影しながら説明している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称
論文			
Fluoxetine and venlafaxine, evoked the release of substance P from cultured rat dorsal root ganglion cells through different PKC isoform-sensitive ion channels.	共著	平成21年	Neuropharmacology (vol.57)
Noradrenaline reduces the ATP-stimulated phosphorylation of p38 MAP kinase via beta-adrenergic receptors-cAMP-protein kinase A-dependent mechanism in cultured rat spinal	共著	平成21年	Neurochem. Int. (vol.55)
Retinoic acid induces discrete Wnt-signaling-dependent differentiation in F9 cells.	共著	平成21年	Biochem. Biophys. Res. Commun. (vol.390)
HMGB1 inhibitor glycyrrhizin attenuates intracerebral hemorrhage-induced injury in rats.	共著	平成23年	Neuropharmacology (vol.61)
Protein kinase A-dependent substance P expression by pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide in rat sensory neuronal cell line ND7/22 cells.	共著	平成24年	Journal of Molecular Neuroscience
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	福山西警察署協議委員（H23より副会長）		
平成22年4月～平成23年3月	日本薬理学会研究推進委員		

田村

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬理学研究室
職名	教授	氏名	田村 豊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年度	学生による授業評価の満足度は4.5であった。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成23年9月	3年生の「代謝性・呼吸器疾患と薬物治療」の教科書として「代謝・内分泌疾患と薬物治療への展開」を執筆した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年1月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会で、本学が実施している「交流学习」の実施方法とその教育効果に関する発表を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年9月29日 ～平成23年11月10日	大学FD研修活動としてPBL-チュートリアル形式の授業を公開し、その実施方法の説明を行った。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
代謝・内分泌疾患と薬物治療への展開		共著	平成23年9月
薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム		共著	平成23年9月
Regulatory mechanism of body temperature in the central nervous system during the maintenance phase of hibernation in Syrian hamsters: Involvement of β -endorphin.		共著	平成24年3月
Switching over from entrance phase to maintenance phase in hibernating Syrian hamsters.		共著	平成20年11月
Neuroprotective effects of hibernation-regulating substances against low-temperature-induced cell death in cultured hamster hippocampal neurons.		共著	平成18年10月
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成21年4月～現在	日本鋼管福山病院治験審査委員		
平成23年4月～現在	福山市学校薬剤師		
平成24年4月～現在	福山市薬剤師会理事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	福山大学	講座名	医療薬剤学	職名	教授	氏名	佐藤 英治
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月	1年次「生体機能調節Ⅰ」、「人体の構造と機能Ⅰ」においてチュートリアル教育を導入					
	平成19年2月	自己評価委員会による授業評価実施、評価結果の学生への公表と問題点の改善					
	平成19年11月	自己評価委員会による授業評価実施、評価結果の学生への公表と問題点の改善					
	平成20年11月	自己評価委員会による授業評価実施、評価結果の学生への公表と問題点の改善					
	平成21年7月	4年次「薬物動態解析Ⅱ」と「臨床検査」において統合型チュートリアル教育導入					
	平成21年9月	4年次「事前学習」において、全教員参加型教育、指導薬剤師参加型教育、学生4グループ同時進行形の学習計画立案・実施					
	平成21年11月	自己評価委員会による授業評価実施、評価結果の学生への公表と問題点の改善					
	平成22年11月	自己評価委員会による授業評価実施、評価結果の学生への公表と問題点の改善					
	平成23年4月	6年次「ファーマシューティカルケア総合学習」においてチュートリアル教育導入					
	平成23年6月	薬剤師会等の研修会場において実務実習学生の実習指導および指導薬剤師との面談実施					
	平成23年11月	大学教育センターによる授業評価実施、評価結果の学生への公表と問題点の改善					
	随時	パワーポイントといった視覚資料を講義に積極的に取り入れ、内容の理解を深める一助としている。					
	随時	ゼミにおいてグループごとにテーマの設定・グループディスカッション・レポート作成および文章能力・プレゼンテーションの訓練を取り入れている。					
	随時	オフィスアワーを設け、質問を受け付けている。					
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年9月	4年次「事前学習」における、到達目標自己評価表、日誌、学生基礎資料、方略の様式を作成					
	平成21年9月	4年次「事前学習」における、方略を作成					
	平成22年3月	5年次「病院・薬局実務実習」における到達目標自己評価表、日誌、週報、学生基礎資料、欠席・遅刻・早退調査票、準備・確認チェックリスト、指導薬剤師用の学生評価表作成					
	平成23年12月	平成22年度「病院・薬局実務実習報告書」作成					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	日本薬学会第126年会	平成18年3月29日	実務実習モデル・コアカリキュラム方略案の事前学習トライアルの実施				
	第18回全国薬学教育者WS中四国および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのWS	平成18年7月29日、30日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）				
		平成18年9月17日、18日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）				
	第2回薬剤師のためのWS（中国・四国）in福山、薬学教育者WS	平成18年10月29日	中国・四国地区における初のOSCEトライアルー福山大学OSCEトライアルー				
	第45回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会	平成19年1月15日	“現在の実習体制から6年制実務実習事前学習への発展”				
	日本薬学会教育部会 教育フォーラム2007	平成19年3月29日	実務実習モデルコアカリキュラムの注射薬調剤の取り組み（第2報）				
日本薬学会第127年会							

佐藤

第4回薬剤師のためのWS（中国・四国）in広島、薬学教育者WS	平成19年4月29日、30日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
広島県実習受け入れ実行委員会タスク養成WS	平成19年7月21日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第6回薬剤師のためのWS（中国・四国）in山陰、薬学教育者WS	平成19年8月18日、19日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第2回福山大学FD合宿研修WS	平成19年9月4日、5日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第7回薬剤師のためのWS（中国・四国）in福山、薬学教育者WS	平成19年9月18日、19日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第17回日本医療薬学会年会	平成19年9月29日	実務実習モデル・コアカリキュラム「注射薬調剤の取り組み」～評価を中心に～
広島県薬剤師会研修会	平成19年11月22日	薬学6年制長期実務実習の実践
広島県薬剤師会研修会	平成20年2月6日	薬学6年制長期実務実習の実践
第9回薬剤師のためのWS(中国・四国) in岡山、薬学教育者WS	平成20年2月10日、11日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第3回福山大学FD合宿研修WS	平成20年3月6日、7日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
日本薬学会第128年会	平成20年3月26日	実務実習モデル・コアカリキュラム 2.5ヵ月実習への取り組み
第10回薬剤師のためのWS（中国・四国）in広島、薬学教育者WS	平成20年5月3日、4日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
平成21年度第1回OSCE評価者養成講習会	平成20年6月22日	OSCE評価法と注意点について
広島県実習受け入れ実行委員会支部担当者養成WS in 広島	平成20年7月21日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第13回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 愛媛、薬学教育者WS	平成20年8月9日、10日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第4回福山大学FD合宿研修WS	平成20年8月20日、21日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
広島県実習受け入れ実行委員会支部担当者養成WS in 福山	平成20年8月31日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第14回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山	平成20年9月14日、15日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第15回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 広島	平成20年10月12日、13日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第47回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会	平成20年11月8日	実務実習モデル・コアカリキュラムの取り組み第5報～実習手順書・ドリルの他施設共同試用～
第16回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 香川、薬学教育者WS	平成20年11月23日、24日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
平成20年度第2回OSCE評価者養成講習会	平成20年12月7日	OSCE評価法と注意点
第17回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、薬学教育者WS	平成21年2月7日、8日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
山口県薬剤師会研修会	平成21年2月28日	長期実務実習の実施に向けて
第5回福山大学FD合宿研修WS	平成20年3月5日、6日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
広島県実習受け入れ実行委員会支部担当者養成WS in 福山	平成21年3月22日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第19回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、薬学教育者WS	平成21年6月20日、21日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
島根県病院薬剤師会講習会	平成21年7月3日	実施困難な到達目標への対応
平成21年度第1回OSCE評価者養成講習会	平成21年7月5日	OSCE評価法と注意点
第20回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 愛媛、薬学教育者WS	平成21年7月19日、20日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
広島県病院薬剤師会東部支部研修会	平成21年7月25日	新人薬剤師の不安と期待
第22回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 山陰、薬学教育者WS	平成21年8月8日、9日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第23回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、薬学教育者WS	平成21年9月12日、13日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
広島県病院薬剤師会三原竹原地区研修会	平成21年10月15日	新たな長期実務実習に向けて

佐藤

平成21年度第1回OSCE直前評価者講習会	平成21年10月18日	OSCE評価法と注意点
平成21年度第2回OSCE直前評価者講習会	平成21年11月15日	OSCE評価法と注意点
第25回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 香川、 薬学教育者WS	平成21年11月22 日、23日	タスクフォース
平成21年度全国国立病院薬剤部科長協議会（中国四 国支部）	平成21年12月12日	長期実務実習の実践
平成21年度第1回病院・薬局実務実習説明会	平成22年1月12日	長期実務実習の問題点と解決法
薬学教育協議会フォーラム2010～伝えよう事前学習 の成果、広げよう連携の輪～	平成22年2月7日	全教員参加の事前学習の構築と実務実習記録の工夫
平成21年度第2回病院・薬局実務実習説明会	平成22年2月13日	長期実務実習の問題点と解決法について
島根県病院薬剤師会・薬剤師会研修会	平成22年2月14日	長期実務実習の実践
第7回福山大学FD合宿研修WS	平成22年3月4日、 5日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第13回実務実習指導薬剤師フォローアップ研修会	平成22年3月25日	長期実務実習の問題点と解決法
第18回クリニカルファーマシーシンポジウム	平成22年7月11日	[広島県東部（福山地区）で実務実習を考える会]設 立とその有用性～長期実務実習における地域病院と 大学教員との連携～
第18回クリニカルファーマシーシンポジウム	平成22年7月11日	いざ！！臨床現場へ～新たなステップに入った6年 制薬学教育～「長期実務実習の準備としての事前学 習」
第28回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、 薬学教育者WS	平成22年7月18 日、19日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
第29回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 広島、 薬学教育者WS	平成22年9月19 日、20日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
平成22年度第1回OSCE直前評価者講習会	平成22年10月31日	OSCE評価法と注意点
第49回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師 会中国四国支部学術大会	平成22年11月7日	長期実務実習のサポート体制と学生の実習評価
第31回広島県薬剤師会学術大会	平成22年11月21日	6年制薬学教育での長期実務実習の評価～初めて実 施した広島県内の病院・薬局実習に対する学生の評 価～
第31回広島県薬剤師会学術大会（シンポジウム）	平成22年11月21日	6年制実務実習第1期を終えて～大学の立場から～
平成22年度第2回OSCE直前評価者講習会	平成22年11月28日	OSCE評価法と注意点
薬学教育協議会フォーラム2011	平成23年2月12日	福山大学の長期実務実習のサポート体制とその評価 ～実習セミナーと実習発表会の開催～
日本薬学会第131年会	平成23年3月29日	長期実務実習のサポート体制と学生の実習評価（2）
薬局実務実習薬剤師フォローアップ研修会	平成23年6月8日	「カウンター実習」（サプリメント）
薬局実務実習薬剤師フォローアップ研修会	平成23年6月14日	「カウンター実習」（OTC）
第125回日本薬学会中国四国支部例会	平成23年6月11日	検証！薬学6年制初めての長期実務実習
第32回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、 薬学教育者WS	平成23年7月17 日、18日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
薬局実務実習薬剤師フォローアップ研修会	平成23年8月28日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）
薬局実務実習薬剤師フォローアップ研修会	平成23年9月21日	「カウンター実習」（サプリメント）
薬局実務実習薬剤師フォローアップ研修会	平成23年9月29日	「カウンター実習」（OTC）
福山大学FD研修会	平成23年9月29日	PBL形式の授業を公開（人体の構造と機能Ⅱ）
福山大学FD研修会	平成23年10月6日	PBL形式の授業を公開（人体の構造と機能Ⅱ）
福山大学FD研修会	平成23年10月20日	PBL形式の授業を公開（人体の構造と機能Ⅱ）
福山大学FD研修会	平成23年10月27日	PBL形式の授業を公開（人体の構造と機能Ⅱ）
福山大学SP養成講習会	平成23年11月17日	シナリオに基づく学生への対応について
福山大学OSCE直前講習会	平成23年11月20日	課題「患者・来局者対応」での評価について
福山だ学OSCE直前講習会	平成23年11月26日	課題「患者・来局者対応」での評価について
薬局実習受け入れ説明会（広島東部）	平成24年4月18日	実習の進め方と課題について
薬局実習受け入れ説明会（広島西部）	平成24年4月26日	実習の進め方と課題について

佐藤

第36回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 福山、 薬学教育者WS	平成24年7月15 日、16日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）	
第37回薬剤師のためのWS（中国・四国）in 岡山、 薬学教育者WS	平成24年9月22 日、23日	カリキュラムの立案（タスクフォース・講演）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第11回日本薬学会薬学教育改革大学人会議アドバンス ネットワークショップ（参加）	平成21年1月24日	これからの実務実習指導薬剤師養成ワークショップ のあり方について	
第13回日本薬学会薬学教育改革大学人会議アドバンス ネットワークショップ（参加）	平成22年8月22日	「第Ⅰ期実務実習の形成的評価」～はじめての長期 実務実習に対するフィードバック～	
日本薬学会第1回薬学教育者のためのアドバンス ネットワークショップ（参加）	平成23年12月26～ 28日	学習成果基盤型教育（Outcome-Based Education） に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える	
日本病院薬剤師会平成24年度診療報酬改定説明会 （参加）	平成24年3月17日	病棟薬剤業務実施加算説明会	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
（論文）大学・ドラッグストア連携を活用した備後 地域における健康食品・一般用医薬品利用実態に関 する調査研究	共著	平成21年7月	医療薬学、（vol.35）
（論文）福山市における大学-高齢者及び保育施設 連携を活用した一般用医薬品・健康食品利用実態に 関する調査研究	共著	平成22年8月	Yakugaku Zasshi (vol.130)
（論文）Placental growth factor-2 gene transfer by electroporation restores diabetic sensory neuropathy in mice	共著	平成23年1月	Exp Neurol (vol.227)
（論文）学校薬剤師を介した小・中・高校生の一般 用医薬品・健康食品の実態調査	共著	平成23年5月	Yakugaku Zasshi (vol.131)
（論文）福山市における地域住民と地域薬剤師のセ ルフメディケーション向上に関するニーズ調査	共著	平成23年7月	Yakugaku Zasshi (vol.131)
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～現在	広島県病院薬剤師会学術研修委員		
平成17年4月～平成22年3月	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構事務局		
平成17年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構広島県実習調整委 員		
平成17年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構島根県実習調整委 員		
平成17年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構岡山県実習調整委 員		
平成17年4月～現在	福山市学校薬剤師		
平成18年4月～現在	日本鋼管福山病院治験審査委員		
平成18年4月～現在	国立病院機構福山医療センター倫理委員		
平成18年4月～現在	国立病院機構福山医療センター受託研究審査委員		
平成18年9月～現在	国立病院機構福山医療センター地域医療支援病院委員		
平成22年4月～現在	国立病院機構福山医療センター研究利益相反審査委員		
平成23年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構ワークショップ委 員		
平成23年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構委員		
平成21年4月～現在	福山市立幸千中学校保健委員		
平成24年4月～現在	広島県薬剤師会IT特別委員		
平成24年4月～現在	広島県薬剤師会実習受け入れ実行委員		
平成24年4月～現在	広島県薬剤師会学術委員		

佐藤

平成24年4月～現在	広島県薬剤師会理事
平成24年6月～現在	日本薬学会薬学教育モデル・コアカリキュラム改定に関する調査研究チーム委員
平成24年9月～現在	日本薬学会アドバンスワークショップ実行委員

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	医薬品化学
職名	教授	氏名	町支 臣成
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	従来から実践 従来から実践	講義において、わかりやすい解説を心がけ、また学生には復習の必要性を説いている。 講義の後、理解しにくいところがあれば教員室を尋ねるように話しており、常時対応している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 第4版 有機薬品製造化学 NEW医薬品化学 CBT対策と演習 医薬品化学	平成16年2月 平成20年2月 平成21年10月	第2章 還元 (p39-66) の執筆を担当 第2編第13章 感染症治療薬 (p268-302) の執筆を担当 第2章 2.5.3β-ラクタムをもつ医薬品の作用機序 (p118-122) の執筆を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第15回日本注射薬臨床情報学会(福山)	平成24年8月	本学での注射剤の配合変化の講義について	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Novel synthesis of 2-azaanthraquinone alkaloid, scorpionone, based on two microwave-assisted pericyclic reactions	共著	平成20年6	Tetrahedron Letters, (vol.49 (23))
A new synthesis of the benzo[c]phenanthridines noritidine, noravicine, and isodecarine, based on a microwave-assisted electrocyclic reaction of the aza 6π-electron system	共著	平成21年2月	Tetrahedron Letters, (vol.50(5))
A Novel Total Synthesis of the Bioactive Poly-substituted Carbazole Alkaloid Carbazomadurin A	共著	平成22年7月	Tetrahedron Letters, (vol.51 (27))
New Synthesis of Carbazole-1,4-quinone using a Tandem Ring-Closing Metathesis and Dehydrogenation Reaction Under Oxygen Atmosphere, and its Application to the Synthesis of Murrayaquinone A	共著	平成23年7月	Tetrahedron Letters, (vol.52 (30))
Synthesis and Antimalarial Activity of Calothrixins A and B, and their N-Alkyl Derivatives	共著	平成24年7月	Bioorg. Med. Chem. Lett. (vol.22(14))
III 学会等および社会における主な活動			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬品分析化学
職名	准教授	氏名	小嶋 英二郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
(1) 教育内容の工夫		平成21年度より	講義は主にパワーポイントを使用し、板書を極力減らしている。 講義日程のなかで演習を組み込んでいる。
(2) 教育方法の工夫		平成24年4月より	PBLや実習を組み込んだ講義も実施している（「臨床検査」）。
(3) 学生による授業評価の活用		平成24年8月時点で未実施	「臨床検査」でDVD教材を取り入れ、前回の講義に関するミニテストを導入した。 平成23年度の授業評価をうけ、上記方法を導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
演習で理解する薬学の分析化学（廣川書店）		平成22年3月	山口政俊・鶴田泰人・能田均 編集／p.185-209
薬学領域の分析化学（第2刷）（廣川書店）		平成22年2月	財津潔・鶴田泰人 編集／p.13-22およびp.111-116
薬学分析科学の最前線（じほう）		平成21年3月	日本薬学会物理系薬学部会・分析化学担当教員会議／p.158-159
薬学領域の機器分析学（廣川書店）		平成21年3月	財津潔・鶴田泰人 編集／p.276-320
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
女子中高生の理系進路選択支援事業（Science Lab）		平成19年より	近郊の女子中高生を対象とした Science Lab（実験型理科学習）の1セクションを担当している。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Antioxidant properties of high molecular weight dietary chitosan in vitro and in vivo	共著	平成23年	Carbohydrate polymers, (vol.83)
（論文）A simple and highly sensitive HPLC method with fluorescent detection for determination of pipercolic acid in mouse brain areas	共著	平成23年	Biol.Pharm.Bull., (vol.34(2))
（論文）Reagent peak-free liquid chromatography-fluorescence analysis of carboxylic acids using a fluoros scavenging-derivatization method	共著	平成22年	Anal. & Bioanal.Chem., (vol.397(6))
（論文）Sensitive determination of carnosine in urine by high-performance liquid chromatography using 4 - (5,6 - dimethoxy - 2 - phthalimidinyl) - 2 - methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent	共著	平成22年	J.Chromatogr. B, (vol.878)
（論文）Antibody to the central region of human T-lymphotropic virus type 1 gp46 is associated with the progression of adult T-cell leukemia.	共著	平成19年	Cancer Sci. 2007 Feb;98(2):240-5. Erratum in: Cancer Sci. 2007 Apr;98(4):620.
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 放射薬品化学	職名 准教授	氏名 本屋敷 敏雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 学生が授業内容を理解しやすくするために、重要事項をまとめて板書し、それを学生がノートに書き写すことによって理解を深めて行くように工夫した講義スタイルに対する学生評価		平成23年12月5日	H22年度の学生授業評価において、「授業がわかりやすかった」が63%、「満足した」が61%であったので、H23年度はそれ以上の評価が得られるように努力したところ、「知識が深まっている」が89%へ上昇し、「満足した」が82%へ上昇した。また、板書に関しても「適切だった」が79%から93%へと上昇した。
2 作成した教科書、教材、参考書 放射化学・放射薬品学 改訂2版（廣川書店）		平成22年4月	共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬毒物分析学辞典	共著	平成21年9月	廣川書店
(著書) 放射化学・放射薬品学 改訂2版	共著	平成22年4月	廣川書店
(論文) ^{13}C トレーサーを用いたヒト尿中カフェイン代謝物のLC-MSによる検索	共著	平成22年11月	安定同位体と生体ガス (vol. 2(1))
(論文) ^{13}C 標識カフェイン服用後のヒト尿中代謝物のNMRによる測定	共著	平成22年11月	安定同位体と生体ガス (vol.2 (1))
(論文) ^{15}N 標識トレーサによる3,4-methylenedioxymethamphetamine(MDMA)光学異性	共著	平成24年2月	安定同位体と生体ガス (vol.3 (1))
(論文) ^{13}C 標識テオフィリン服用後のヒト尿中代謝物のNMRによる定量	共著	平成24年5月	RADIOISOTOPES (vol.61(5))
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	臨床分析化学
職名	准教授	氏名	井上 裕文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 講義の進行に合わせてプリントを配布 学生による授業評価アンケートの実施 学部連携PBLシステムのトライアル		平成20年度～平成24年度 平成20年度～平成24年度 平成24年8月6日、7日	講義をより理解してもらうために、講義の進度に合わせてプリントを配布している 授業評価アンケート結果を考慮し、配布プリントや講義の進行度などを改善している。 心理学科、生命栄養学科、薬学部での学部連携PBLのトライアルを実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義プリント 実習(分析化学系)実習書 薬学分析科学の最前線 薬学領域の分析化学 演習で理解する薬学の分析化学		平成20年度～平成24年度 平成20年度～平成24年度 平成21年3月31日 平成21年4月10日 平成22年3月15日	化学平衡、化学物質の検出と定量の講義プリント 容量分析法・機器分析の実習内容のテキスト 薬学領域における最近の研究の解説書 薬学領域における化学的反応を利用した分析法に関する教科書 薬学領域における分析法に関する内容の問題を中心とした教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 認定実務実習指導薬剤師養成「薬剤師のためのワークショップ(中国・四国)」		平成19年～平成24年度	カリキュラムの立案(タスクフォース・講演) 計15回参加
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成23年9月	学内のFD研修委員会からの要請により、SGDを利用した講義「薬学入門」の授業参観を引き受けた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Identification of N-ethylglycine in urine of cancer patients with metastatic bone disease	共著	平成19年2月	Clinica Chimica Acta, (vol.376(1-2))
(論文) Simultaneous analysis of 1,2,3,4-tetrahydroisoquinolines by high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent	共著	平成20年5月	Journal of Chromatography B, (vol.867(1))
(論文) Determination of N-ethylglycine in urine of cancer patients with metastatic bone disease by HPLC using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent.	共著	平成20年12月	Analytical Sciences, (vol.24(12))
(論文) Sensitive determination of carnosine in urine by high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent	共著	平成22年2月	Journal of Chromatography B, (vol.878(3-4))
(論文) A simple and highly sensitive HPLC method with fluorescent detection for determination of pipercolic acid in mouse brain areas	共著	平成23年2月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, (vol.34(2))
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬品物理化学
職名	准教授	氏名	秦 季之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			学生が理解しやすいように、身近な例を挙げるなどしている。独自資料配布や、講義中の質問などを行っている。授業アンケートは、板書法、話し方などの評価が良かった。今後も講義中の声を大きく、板書を丁寧に行うことなどを心がける。
1) 教育内容の工夫：具体的な内容の提示 2) 教育方法の工夫：資料配布、質問の活用 3) 学生による授業評価の活用：板書等の工夫			
2 作成した教科書、教材、参考書			
講義プリント			物質の構造 I で作成
実習書（物理化学系実習）			2年生で行う実習で使用する
薬学物理化学第5版		平成22年9月	担当する物理化学系の教科書、問題集として作成し、使用している。
薬学物理化学演習第3版		平成23年9月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
認定実務実習指導薬剤師養成「薬剤師のためのワークショップ(中国・四国)」		平成19年～平成24年度	カリキュラムの立案(タスクフォース・講演)
4 その他教育活動上特記すべき事項			
全学：広報委員、情報処理教育センター運営委員 学部内委員：CBT実施部会、ITネットワーク委員、国家試験対策委員 学部内サーバ管理：インターネットサーバ、試験対策プログラムサーバ、情報共有サーバの管理およびコンピュータ教室の管理			全学の広報委員、情報処理教育センター運営委員を、学部内の、CBT実施部会委員、ITネットワーク委員、国家試験対策委員を担当しており、それぞれの委員会で活動している。特に学部内では、学部内のサーバやコンピュータ教室の管理を行っている。また、学外においては、「指導薬剤師のためのワークショップ」のタスクフォースを務めている。
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Flexibility of the coordination geometry around the cupric ions in Cu(II)-rat dipeptidyl peptidase III is important for the expression of enzyme activity	共著	平成24年5月	Archives of Biochemistry and Biophysics, (vol.525)
(論文) Metal preferences of zinc-binding motif on metalloproteases	共著	平成23年3月	Journal of Amino Acids. Volume 2011 (2011)
(論文) In rat dipeptidyl peptidase III, His568 is essential for catalysis, and Glu507 or Glu512 stabilizes the coordination bond between His455 or His450 and zinc ion	共著	平成22年6月	Biochimica et Biophysica Acta 1804 (2010)
(論文) Useful Extend-release Chitosan Tablets with High Antioxidant Activity	共著	平成22年5月	Pharmaceutics 2010, 2.
(論文) Timolol Activates the Enzyme Activities of Human Carbonic Anhydrase I and II	共著	平成22年年2月	Biol. Pharm. Bull. (vol.33(2))
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 免疫生物学	職名 准教授	氏名 道原 明宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～現在 平成23年4月～現在	PBL授業方式により自主的に学ぶ態度を身につけさせている。(1年生) 学外で老人と触れ合うことにより、コミュニケーション能力の向上を図らせている。(2年生)	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年11月 平成24年11月	研究室の学生が日本薬学会中国四国支部学生奨励賞を受賞した。(2人) 研究室の学生が日本薬学会中国四国支部学生奨励賞を受賞した。(3人)	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
The effect of primaquine on lysosomal protein in cultured rat hepatocytes.	共著	平成20年4月	J. Health Sci. (vol.54(2)) 査読有
Delta-tocotrienol causes decrease of melanin content in mouse melanoma cells.	共著	平成21年4月	J. Health Sci. (vol.55(2)) 査読有
High levels of oxidative stress exist in the brain than serum or kidneys in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rats at Ten Weeks of Age.	共著	平成22年3月	Biol. Pharm. Bull. (vol.33(3)) 査読有
Effect of Delta-Tocotrienol on Melanin Content and Enzymes for Melanin Synthesis in Mouse Melanoma Cells	共著	平成22年9月	Biol. Pharm. Bull. (vol.33(9)) 査読有
Comparison of Receptors and Enzymes Regulating Cholesterol Levels in Liver between SHR/NDmcr-cp Rats and Normotensive Wistar Kyoto Rats at Ten Weeks of Age.	共著	平成23年7月	Biol. Pharm. Bull. (vol.34(7)) 査読有
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	SHR等疾患モデル共同研究会評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬剤情報解析学
職名	准教授	氏名	五郎丸 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			・毎年授業評価を実施し、必要に応じ改善(スライドの文字色の使い方等)している。 ・学生の理解を深めるため、授業の最後に確認テストを実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 肺障害を指標としたラット過敏反応モデルによる先発および後発Paclitaxel注射液の副作用の比較	共著	平成23年4月	癌と化学療法(第38巻4号)
(論文) Antioxidant properties of high molecular weight dietary chitosan in vitro and in vivo	共著	平成23年1月	Carbohydrate Polymers Volume 83, Issue 2
(論文) 福山大学薬学部における幼児・高齢者との交流学习への取り組み 学生のコミュニケーションおよびホスピタリティ能力を培うために	共著	平成22年7月	医療薬学(第36巻7号)
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習中国・四国地区調整機構島根県実習調整委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	分子微生物学
職名	講師	氏名	田淵 紀彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 生体防御Ⅰ授業評価（講義の満足度4.13、学習成果4.09）		平成24年4月～7月	人体の生体防御機構について、パワーポイント、板書等を用いて、講義毎に前回の復習を行ってから、新たな内容に進む方法をとっており、おおむね学生からの5点評価は、薬学部の平均より高かった。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 第36回薬剤師のためのワークショップ（中国・四国）in 福山、指導薬剤師養成WS		平成24年7月15,16日	カリキュラムの立案(タスクフォース・講演)
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(論文) Surveillance study on use of over-the-counter drug and health food by school pharmacist for grade-schooler, junior high school student, and high school students		共著	平成23年3月
(論文) Antioxidant properties of high molecular weight dietary chitosan in vitro and in vivo		共著	平成23年1月
(論文) Molecular mechanism of the borrelial proteins at interface with host and vector tick interactions		共著	平成22年12月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
			薬学雑誌（第131巻第5号）
			Carbohydrate Polymers(Vol83(2))
			日本細菌学雑誌（第65巻2-4号）
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年4月～現在	福山市医師会看護専門学校非常勤講師		
平成22年4月～現在	福山市学校薬剤師（福山市立瀬戸小学校、福山市立熊野小学校）		
平成22年～現在	薬物乱用防止教室の開催（福山市立幸千中学校）		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	薬物治療学
職名	講師	氏名	土谷 大樹
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年4月～現在	<p>主な担当科目として生体機能調節、生理活性分子とシグナル分子、消化器系疾患と薬物治療、循環器・腎疾患と薬物治療、実習IV、IT、総合薬学演習、ファーマシューティカルケア総合演習、医療薬学演習、課題研究などの他、実務系の実習（含む事前学習等）などを実施している。</p> <p>講義では習得すべき内容を分かりやすくまとめた講義プリントを配布し、スライド等を用いて視覚的・直感的に理解できるように工夫している。また定期の授業評価のほかに随時独自にアンケートや要望等を収集し、プリントやスライドの内容やスタイル、進行スピード等について改善に生かすようにし、学生への素早いフィードバックとなるべく努めている。</p> <p>また、実習系の科目においては、実習書および解説プリント等を配布し、実際の操作を通じて学生に講義内容を再確認させると共に、口頭試問やアドバイス等を実施して学生の理解力を養っている。また、課題研究においては4～6年次の学生に毎日対面し、卒業論文の作成等において指導している。</p> <p>演習系の科目においては、国家試験等に狙われ易いポイントを簡単に講義し、その後問題を解かせる型式を主に行っている。解説時にポイントの他に暗記のための語呂合わせ等も随時紹介しており、学生には好評のようである。</p>
2	作成した教科書、教材、参考書	平成19年4月～現在	上記担当科目の講義プリント、スライド、演習問題等。毎年あるいは毎週更新している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年11月30日 平成24年3月29日	<p>フィジカルアセスメントに関する薬学生の意識調査－バイタルサイン取得演習との関連について－。第50回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会（高松）；6年次科目ファーマシューティカルケア総合演習での教育実践を報告</p> <p>フィジカルアセスメントに関する薬学生および地域薬剤師の意識調査－バイタルサイン取得演習との関連について－。日本薬学会第132年会（札幌）；6年次科目ファーマシューティカルケア総合演習および卒業教育での教育実践を報告</p>
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成19年4月～現在 平成19年4月～現在 平成19年4月～現在 平成20年4月～現在	<p>学園祭薬学部薬理班におけるスーパーバイザーとして学生を指導。</p> <p>また、大学祭実行部会委員（全学・薬学部内）として、学園祭参加学生、特に学園祭薬学部運営班の学生を指導。</p> <p>サイエンスラボへの協カスタッフとして中学生・高校生等へ理科の指導。</p> <p>本学の体験入学会・見学会等において体験実習コーナーを年2～4回担当し、特に高校生等へ薬学の指導を実施。</p> <p>薬剤師国家試験・CBT対策委員会メンバーとして、薬学部のCBTや薬剤師国家試験に向けた教育体制の構築および実践に大きく活躍。</p> <p>薬学部統合型リカレント教育検討委員会委員として、一般人向けの健康に関する講演会を企画し、年2-3回程度開催・運営している。</p>

平成20年8月5日～平成20年9月16日	広島県研修協議会福山支部 シリーズ研修会2008にて「中枢難病の基礎について」および「細胞を利用した再生医療」をテーマに臨床薬剤師に向けて講義を実施。
平成22年10月16日	尾道中学校・高等学校就職ガイダンスセミナーにおいて、「薬学の職業」をテーマに講演。
平成23年10月1日	第35回福山大学薬学部卒業後教育研修会において、「高機能患者シミュレータを用いた体験学習」をテーマに卒業生・臨床薬剤師等に対して講義演習を実施。
平成23年11月3日～平成23年12月18日	就実大学薬学部共用試験OSCE（含む事前講習会）における、外部評価者として参加し、就実大学薬学部の薬学教育に協力。
平成24年7月16日	私学フェスタ2012年福山において、「福山大学による夏休み自由研究コーナー」をテーマに3つのミニ体験実習を実施し、来場者（中学生・高校生・保護者他）に対して指導を実施。また薬学や本学などについての質問・相談に対応。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Expression of mRNA for 5-HT2 receptors and proteins related to inactivation of 5-HT in mouse osteoblasts	共著	平成21年 2月	J. Pharmacol. Sci., (vol109)
（論文） 福山大学薬学部における幼児・高齢者との交流学习への取り組みー学生のコミュニケーションおよびホスピタリティ能力を培うためにー	共著	平成22年 7月	医療薬学, (vol.36)
（論文） Antioxidant properties of high molecular weight dietary chitosan in vitro and in vivo	共著	平成22年 8月	Carbohydrate Polymers, vol.344
（論文） The antioxidative and antilipidemic effects of different molecular weight chitosans in metabolic syndrome model rats	共著	平成22年12月	Biol. Pharm. Bull., (vol.33)
（論文） Protein Kinase A-Dependent Substance P Expression by Pituitary Adenylate Cyclase-Activating Polypeptide in Rat Sensory Neuronal Cell Line ND7/23 Cells	共著	平成24年 3月	J. Mol. Neurosci., (vol.48)

III 学会等および社会における主な活動

平成24年4月～現在	広島県厚生連尾道看護専門学校 非常勤講師
平成24年4月～現在	学校法人穴吹学園 穴吹調理製菓専門学校 非常勤講師

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 ゲノム創薬科学	職名 助教	氏名 松岡 浩史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月1日	講義「遺伝子进行操作する」では定期的に小テストを実施することで学習者の理解度を調査し、理解不足がみられた項目について重点的に補足説明するように努めた。また、講義中には質問しづらい学習者のために講義終了毎に質問アンケートを実施した。このことは、学習者に行った授業評価アンケートで高く評価されていた。また、講義時間とは別に、希望者を対象とした補習授業をおこなった。その効果については定かではないが、受講者には好評であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成22年9月1日	実習Ⅲ（遺伝子工学系）において、組換えDNA実験指針、組換えDNAの作製および解析における基本的な手法を学習者に理解してもらうために、実習テキストを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年4月1日	大学主催のFD活動に積極的に参加した。また、個人的なFD活動として、自己の教育・指導方法を見直すために、ベテラン教員の授業方法や指導方法などを参考にするように努めた。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Organization and function of the <i>tsiA</i> regulon of <i>Bacillus subtilis</i> involved in fatty acid degradation.	共著	平成19年2月	The journal of biological chemistry, (vol.282(8))
(論文) Regulation of fatty acid metabolism in bacteria.	共著	平成19年11月	Molecular microbiology, (vol.66(4))
(論文) Symbiotic effects of a lipase-secreting bacterium, <i>Burkholderia arboris</i> SL1B1, and a glycerol-assimilating yeast, <i>Candida cylindracea</i> SL1B2, on triacylglycerol degradation.	共著	平成21年4月	Journal of bioscience and bioengineering, (vol.107(4))
(論文) Identification and characterization of a novel multidrug resistance operon, <i>mdtRP(yusOP)</i> , of <i>Bacillus subtilis</i> .	共著	平成21年5月	Journal of bacteriology, (vol.191(10))
(論文) <i>Bacillus subtilis</i> <i>FadR</i> regulon, which is involved in fatty acid catabolism.	共著	平成23年5月	Journal of bacteriology, (vol.193(10))
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬物治療	職名 助教	氏名 大西 正俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		授業評価では、自己学習に関連するスコアが低かった。 板書には絵を多く用い一旦理解させ、その日の内に活字の専門書(プリント)で復習させる	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Long-term treatment with nicotine suppresses neurotoxicity of, and microglial activation by, thrombin in cortico-striatal slice cultures	共著	平成21年1月	European Journal of Pharmacology (vol.602(2-3))
Mitogen-activated protein kinases support survival of activated microglia that mediate thrombin-induced striatal injury in organotypic slice culture	共著	平成22年8月	Journal of Neuroscience Research (vol.88(10))
Heme oxygenase-1 contributes to pathology associated with thrombin-induced striatal and cortical injury in organotypic slice culture	共著	平成22年8月	Brain Research (vol.1347)
HMGB1 inhibitor glycyrrhizin attenuates intracerebral hemorrhage-induced injury in rats	共著	平成23年10-11月	Neuropharmacology (vol.61(5-6))
Protein kinase A-dependent substance P expression by pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide in rat sensory neuronal cell line ND7/23 cells	共著	平成24年	Journal of Molecular Neuroscience
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 上敷領 淳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		学生が授業内容を理解しやすくするために、なるべく学生にとってなじみのありそうな話題を周辺情報として織り交ぜながら講義をするように心がけている。また、講義では教科書の他に配布プリントを複製したり、毎回確認テストを行ったりしながら、学生の理解度に応じた講義内容になるように心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学生主体の研究室セミナーを行い、学生に課題を課し、発表させることで学生に問題意識を持たせている。また、なるべく学会において学生に発表させることで学生の成長を促している。学内委員としては、国家試験対策委員として、薬剤師国家試験の合格率向上に貢献している。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structure-guided identification of a new catalytic motif of oligosaccharyltransferase.	共著	平成20年1月	EMBO Journal (vol.27)
(論文) HLA-G molecule	共著	平成21年	Current Pharmaceutical Design (vol.15)
(論文) Comparative structural biology of eubacterial and archaeal oligosaccharyltransferases.	共著	平成22年2月	Journal of Biological Chemistry (vol.285)
(論文) Structure of the measles virus hemagglutinin bound to its cellular receptor SLAM.	共著	平成23年2月	Nature Structural and Molecular Biology (vol.18)
(論文) The ability of galate and pyrogallol moieties of catechins to inhibit P-glycoprotein function.	共著	平成23年6月	Journal of Functional Foods (vol.3)
(論文) Molecular basis for LLT1 protein recognition by human CD161 protein (NKRP1A/KLRB1).	共著	同 年7月	Journal of Biological Chemistry (vol.286)
(論文) Crystallization strategy for the glycoprotein-receptor complex between measles virus hemagglutinin and its cellular receptor SLAM.	共著	平成24年4月	Protein Peptide Letter (vol.19)
(論文) Influence of gallate and pyrogallol moieties on the intestinal absorption of (-)-Epicatechin and (-)-Epicatechin gallate.	共著	同 年8月	Journal of Food Science
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 生体機能解析学	職名 助教	氏名 堤 広之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年度 より 平成24年度 より 平成24年度 より 平成20年4月 ～平成24年4月	<p>法・制度関連科目において それまでに法律の知識がほとんどない薬学生にとって、3年生から始まる法・制度関連科目はすぐにはなじむことができない、敬遠されがちな科目となっている。。そこで、「まず法律ありきではなく、事象ありき。」という方式を導入することにした。日常、病院や薬局など医療現場で起きている事件、事故(例:麻薬である注射用アンブルをこぼしてしまった。)をまずとりあげ、その解決のための法律を学んでいくことにより薬事関係法規を学ばせるというものである。この方式を採用することにより、学生が、法・制度関連科目を不得意な科目とすることなく、円滑な知識の修得が可能になりその内容についての理解度の飛躍的な向上を図ることになっている。</p> <p>医薬品開発 I において 「医薬品開発 I」(2年生後期)では、代表的な医薬品と生体高分子(薬物受容体、酵素)との相互作用について講義することになっている。筆者はこれまで茶カテキン類とカフェイン錯体の立体化学構造をX線結晶構造解析を用いて決定し、両者の間に作用している相互作用について検討してきた。ここで得られた知識や経験をこの講義で十分に活かしていきたいと考えている。すなわち、化合物としての医薬品とタンパク質である生体高分子の相互作用について分子レベルでできるかぎり分かり易く講義することになっている。</p> <p>薬学英語 I において 「薬学英語 I」では、有機化学の基礎的な分野の英語を題材にすることにより、1年生で学習した内容を復習できるような形にしている。また、筆者が作成した教材の最後には、重要な単語をまとめ、復習しやすいようにもしている。さらに、オフィスアワーの充実をさせ、質問に来た学生にはできる限り時間をかけて丁寧に説明するようにこころがけている。</p> <p>基礎学力アンケート 入学直後の1年次生を対象として、化学、生物、物理、数学について試験を実施している基礎学力アンケートは高校で学んだ内容の中から、大学の講義を理解する上で、必要な知識について問うものである。また、このアンケートでは同時に高校で履修した科目、得意科目、不得意科目についても調査している。この基礎学力アンケートの結果から学生の基礎学力の水準を把握し、今後の円滑な講義進行のために役立てることになっている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成19年～24年 平成19年～24年 平成19年～24年	官能基と構造解析用資料「NMR、IR、MS」 医薬品管理用資料「危ない薬」 実習 I・実習 II (有機化学)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
サイエンスラボ実験理科型学習における講義と実習を年2回開催する。	平成19年～平成24年	「かぜ薬をつくってみよう！ ー解熱・鎮痛薬エテンザミドの合成と確認ー」 「危ない薬 ～麻薬、覚せい剤から違法ドラッグまで～」	
教員免許更新講習	平成21年～平成24年		
大学祭(三蔵祭)	平成19～24年	学園祭における化学班の指導	
九州国際大学附属高校	平成21年12月10日	出張講義	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Chemistry and crystal structures of complexes of caffeine and tea catechins	共著	平成24年9月	Royal Society of Chemistry Publishing 53-71
(論文) Characterization of Creaming Precipitate of Tea Catechins and Caffeine in Aqueous Solution	共著	平成24年9月	Chemical&Pharmaceutical Bulletin (vol.60(9))
(論文) Configurational Studies of Complexes of Various Tea Catechins and Caffeine in Crystal State	共著	平成23年8月	Chemical&Pharmaceutical Bulletin (vol.59(8))
(論文) Configurational Studies of Complexes of Tea Catechins with Caffeine and Various Cyclodextrins	共著	平成23年3月	Planta Medica (vol.77)
(論文) Stereochemical Structure and Intermolecular Interaction of Complexes of (-)-Gallic acid-3-O-Gallate and Caffeine	共著	平成23年1月	Chemical&Pharmaceutical Bulletin (vol.59(1))
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			